



2024 年度 立命館大学寺脇拓ゼミ地域連携・課題解決型プロジェクト

寺脇拓ゼミ

ESDー持続可能な開発のための教育ーによる 着物の「普段使い」普及促進プロジェクト

報告書

【分析部分抜粋】

2025 年 3 月

立命館大学経済学部 寺脇拓ゼミ

1. はじめに

近年、ファッション産業が環境に与える影響の大きさが指摘される中、「サステナブルファッション (Sustainable Fashion)」と呼ばれる人類の将来や地球環境に配慮したファッションへの取り組みが急速に広がっている。現在のファッション産業の中心はファストファッションにあり、そこでは衣服の大量生産・大量消費を通して多くの資源やエネルギーが使用され、そして大量廃棄により大きな負荷を環境に与えている。環境省 (2024) によれば、現在日本では衣服を一着製造するのに 25.5 kg の二酸化炭素を排出し、2300 リットルの水を消費していると推計され、1 日当たり 1200t の衣類が焼却・埋め立て処分されている。サステナブルファッションはこの流れを断ち切り、社会の持続性の観点からファッションの在り方を見直して、3R やアップサイクルなどに取り組むものであり、その普及が現在社会的に求められている。

日本の伝統衣装である「着物」はまさにそのサステナブルファッションの一つである。細長い一反の布から直線的に裁断していくため、端切れがほとんど出ず、仕立て直しができることから、体型が変わっても長く着続けられる (Green Growers, 2022)。また着物の形状は江戸時代から変わっておらず、流行に左右されにくいことから長く着られる衣服だといえる¹。しかしながら 1980 年代以降、着物の市場規模は減少の一途を辿っている (荒木, 2018; 矢野経済研究所, 2024)。戦前までは普段着として着られていた着物は、戦後、洋装の普及と共に普段着としては着用されなくなり (小泉, 2006)、いまや着物は成人式や卒業式などの特別な場面でしか着られていないのが現状である (マイボイスコム, 2022; 梨花和服・花乃和服, 2024)。それでも若年層を中心に着物レンタルの市場は堅調に成長しており (矢野経済研究所, 2019)、着物に対する需要は消えてしまったわけではない。最近ではアンティーク着物やリサイクル着物を販売する店舗が増加し、比較的安価で手軽にカジュアルな着物を入手できる機会も増えている²。SDGs (Sustainable Development Goals) に対する関心が高まる中、サステナブルファッションの観点から着物を再評価し、その魅力を広く伝えることで、着物を普段着として着用する人の増加が期待されよう。それはファッション産業が引き起こす環境負荷の低減と日本の伝統文化継承の両方に貢献する。

そこで本研究では、現代のファッション産業が引き起こす環境負荷と着物のサステナブルファッションとしての特性を広く情報として伝えることで、人々の着物の普段使いがど

¹ kimono tento の店主、泉陽香様からご教示いただいた。

² 諸説あるものの、一般に明治から昭和初期 (戦前) に仕立てられた着物を「アンティーク着物」、それ以降に仕立てられた着物を「リサイクル着物」と呼ぶ (Kimono Note, 2024)。

れほど促されるかを分析することに取り組む。こうした情報提供は、持続可能な社会の実現を目指す学習・教育活動の一環として捉えられ、一般に ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) と呼ばれる (文部科学省, 2024) ³。本研究はこの ESD の観点から環境情報が着物需要に与える効果を計測するものである。具体的には、着物の「普段使い」という観点から、その需要を測る指標としてアンティーク/リサイクル着物 (古着の着物) に対する支払意思額とレンタルを含む着物の年間着用回数に注目し、アンケート調査によりそれらの金額と頻度を尋ねる。その後着物に関する環境情報を与え、再度それらの金額と頻度を問うことで、ESD による着物需要の変化を見極める。さらに区間回帰モデル (Interval Regression Model) を用いて支払意思額 (Willingness to Pay: WTP) を被説明変数とする WTP 関数を推定し、アンティーク/リサイクル着物に対する支払意思額を規定する要因を探る。アンケート調査は 2024 年 11 月に滋賀県近江八幡市の八幡堀周辺で行い、同年 12 月にも京都府京都市東山区にある円山公園で実施した。近江八幡市の調査では、着物交換会をメインに着物の普段使いを促すイベント「八幡キモノコレクション」を開催し、それにより集客を図るとともに、訪問者に着物で出かけるイメージをつかんでもらうため、メンバー全員着物姿でアンケート調査を行った。

本論文の構成は次の通りである。第 2 章では本研究の背景として、着物とサステナブルファッションとの関係、着物市場の動向、並びに着物の普段使いの普及に向けた ESD の役割を紹介する。第 3 章では、調査設計と分析に用いた計量モデル、データ集計の方法を説明する。第 4 章では、当団体が滋賀県近江八幡市の八幡堀周辺にて開催した「八幡キモノコレクション」の概要を紹介する。第 5 章ではアンケート調査の概要を説明し、各質問の回答を調査地別に集計した結果を考察する。第 6 章では、環境情報の提供が古着の着物に対する支払意思額と着物の普段使いの頻度に与える影響を分析すると共に、計量モデルを用いてその支払意思額の規定要因を探る。第 7 章では、本研究の結論と今後の課題を述べる。さらに補論として、今回の活動資金を集めるために取り組んだクラウドファンディングの概要を紹介する。

³ ESD は子供への教育だけを指すわけではない。本研究では、アンケート調査を通してファッション産業が引き起こす環境負荷や着物のサステナブルファッションとしての特性を「大人」に学んでもらい、それによって着物の普段使いを促すことに取り組む。

2. サステナブルファッションと着物市場

2.1 ファッション産業の環境負荷

ファッション産業は、原材料の調達、衣服の製造、輸送からその廃棄に至るまで、それぞれの段階で環境に大きな負荷を与えている。原材料の調達から衣服が店頭が届くまでの間に生じる環境負荷を計算すると、現在日本では衣服を一着製造するのに 25.5 kgの二酸化炭素が排出され、2300 リットルの水が消費されていることになる。これらはそれぞれペットボトルを約 255 本製造するのに排出される二酸化炭素の量と、風呂の浴槽約 11 杯分の水の量に相当する。また衣服の製造に伴って排出される端材は年間約 4.5 万トンに上っており、多くはリサイクルされるものの、その重量は衣服約 1.8 億着分に対応する（日本総合研究所，2021；環境省，2024）。さらに、人が衣服を手放す際には、その約 68%が可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄され、その廃棄された衣類の 95%が焼却・埋め立て処分されている。その量は 1 日当たり 1200t に上り、大型トラック 120 台分に相当する（矢野経済研究所，2023；環境省，2024）。

近年、ファストファッション市場の広がりとともに消費者が機能性や着心地を重視する傾向が強まっており、クールビズなどのビジネスファッションのカジュアル化とも重なって、衣服の低価格化が進んでいる（川人，2021）。衣服一枚あたりの価格をみると、1990 年には 6848 円であったものが、2021 年には 2785 円にまで低下している（環境省，2024）。低価格化に伴う売り上げの減少を食い止めるためには販売量を増やす必要があるため、衣服の供給量は増加し、それを維持するために衣服のライフサイクルが短期化され、結果上記のような衣服の大量廃棄へとつながる。こうした構造により、大量生産、大量消費、そして大量廃棄のサイクルが確立されてしまっているのが現状である。

2.2 サステナブルファッションの取り組み

サステナブルファッションの考え方は、上述のようなファッション産業が引き起こす環境・資源問題を背景に登場した。環境省（2024）によれば、サステナブルファッションとは「衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や関わる人・社会に配慮した取り組み」と定義されている。表 2.1 は環境省（2024）が実施した、人々のサステナブルファッションへの関心についてのアンケート調査の結果である。半数以上の人々がサステナブルファッションを認知しており、約 36%の人々がサステナブルファッションに関心を持っているが、実際の行動に移している人は 7%程度にとどまっている。

表 2.1 サステナブルファッションへの関心

	割合
継続層 具体的な取り組みを行って6ヶ月以上である	3.0%
実行層 具体的な取り組みを行って6ヶ月未満である	0.7%
準備層 関心があり、ここ一ヶ月以内にできることは実行したい	3.2%
関心層 関心はあるが、日常生活の中で具体的な行動は起こしていない	29.2%
無関心層 知っているが全く関心はない	16.0%
非認知層 サステナブルファッションを知らなかった	47.9%

出典：環境省（2024）より筆者作成

サステナブルファッションが目指す持続可能な社会の実現に向けては、企業と消費者双方が同じ目標を持ち、それぞれの役割を果たすよう行動することが重要となる。環境省（2024）はその具体的な行動指針として以下の5つをあげている。1つは一着の服を長く使用することである。人々が同じ服を今よりも1年長く着続ければ、日本全体で廃棄量が約4万トン以上削減されることが指摘されている。それゆえ、企業が長期間着ることのできる衣服を開発し、消費者が服の仕立て直しやリペアを行いながら一着を長く着ることで、衣服の廃棄量の削減が期待される。2つ目はリユースを行い、一着当たりの着用回数を増やすことである。人々は1年間に一度も着ていない服を約25枚所有しており、また手放す衣服全体のうちフリマアプリなどの中古市場に再流通する量は全体の2割程度だといわれている。シェアリングサービスやレンタルサービスも含めて着用されていない衣服の再流通を促す仕組みを取り入れ、消費者の選択の機会を増やすことで、衣服のリユースが進むものと思われる。3つ目は長期的な視点で計画的に衣服を生産、購入することである。企業が事前予約受注で売れ行きを予測してから発注するなど、適正な在庫管理に取り組み、そして消費者が長く着られる品質の良い衣服や、必要な衣服だけを購入するようになれば、衣類ロスが削減されるに違いない。4つ目は衣服の製造・流通における環境への配慮に目を向けることである。企業は環境ラベルなどを活用しながら素材や生産ルートに関する環境情報を消費者に伝え、消費者はその環境配慮に関心を持つことで、衣服のライフサイクル全体の環境負荷が減少するであろう。5つ目は古着を資源として再活用することである。衣服一着がゴミとして廃棄、焼却されずに回収された場合、約0.5kgの二酸化炭素の削減が期待できる。店頭回収を行うなど古着のリサイクルシステムを確立させ、消費者がそれに協力することで、大幅な二酸化炭素の排出削減が見込まれる。

2021年にはサステナブルなファッション産業への移行を目指し、ジャパンサステナブルファッションアライアンス（JSFA）が設立された。この組織はファッション産業が抱える環

境・社会問題の解決に向けて、個別の企業だけでは解決が難しい課題に共同で取り組む企業連携プラットフォームである⁴。環境省、消費者庁、経済産業省、京都市もパブリックパートナーとして参画しており、官民が一体となってサステナブルファッションの推進に取り組んでいる。

2.3 サステナブルファッションとしての着物

親から子、孫へと世代を超えて受け継がれる着物はまさにサステナブルファッションの精神を体現するものである。そのサステナブルな特徴は以下の3つから構成される。1つ目は端切れがほとんど出ないことである。上述の通り、現在衣服の製造に伴って排出される端材は年間約4.5万トンにも上っており、それは洋服が型紙を使い、体に合わせて曲線的な裁断方法を用いることに起因する。一方で、着物は細長い一反の布を直線的に裁断しながら、袖、前身頃、後ろ身頃、襟などの部分を切り出していくため、無駄な部分が少なく、端切れもほとんど発生しない（Green Growers, 2022）。2つ目は仕立て直しが容易であることである。洋服は基本的に体型が変わればそのサイズに合ったものに買い替える必要がある。それに対して着物は腰の部分で折り込んで、いわゆる「おはしより」を作って着るのが一般的であり、体型の変化に合わせてサイズを調整することが可能である。初めから身長よりも少し長めに裁断されていることや、直線縫いであることも仕立て直しを容易にする理由の一つである（Green Growers, 2022）。3つ目は、着物が時代を超えて愛され続けていることである。着物は時代と共に新たなデザインや素材が取り入れられ、着こなしも少しずつ変化してはいるものの、その形状は江戸時代から大きく変わっていない。それは日本の伝統的な着物の形が多くの人々に愛され、完成した美しさをもつからに他ならない。その形状の普遍的な美しさゆえに着物はトレンドに左右されにくく、その意味でも長く着続けられる衣服だと言える⁵。

着物は、物を長く大切に扱っていこうという先代の思いや知恵が込められた、日本独自のサステナブルな衣服である。着物文化を継承し、着物の普段使いを促進することは、現在のファッション産業が抱える環境問題の解決に貢献するに違いない。

⁴ ジャパンサステナブルファッションアライアンス (<https://jsfa.info/>) を参照

⁵ kimono tento の店主、泉陽香様からご教示いただいた。

2.4 着物市場の衰退

日本の伝統衣装として長く受け継がれてきた着物ではあるが、図 2.1 に示される通り、その市場規模は近年減少の一途を辿っている。矢野経済研究所（2024）によれば、2024 年の呉服小売市場規模は 2230 億円と予想されており、「2 兆円産業」と言われたピーク時（1981 年の 1 兆 8000 億円）から約 8 分の 1 にまで縮小している（荒木，2018；矢野経済研究所，2024）。図 2.2 は京都の西陣織物、丹後織物の出荷額の推移を示したものである。京都は着物の出荷額が全国 1 位であるが、それらについても 2023 年の出荷額は 2010 年と比べてそれぞれ約 71%、約 43%減少した（京都府，2024a）。総務省統計局の「家計調査」によれば、2 人以上の世帯における和服への年間支出額は、2001 年の 8212 円から 2023 年には 1020 円にまで減少しており、その減少率はこの 20 年間で約 88%にも上る⁶。

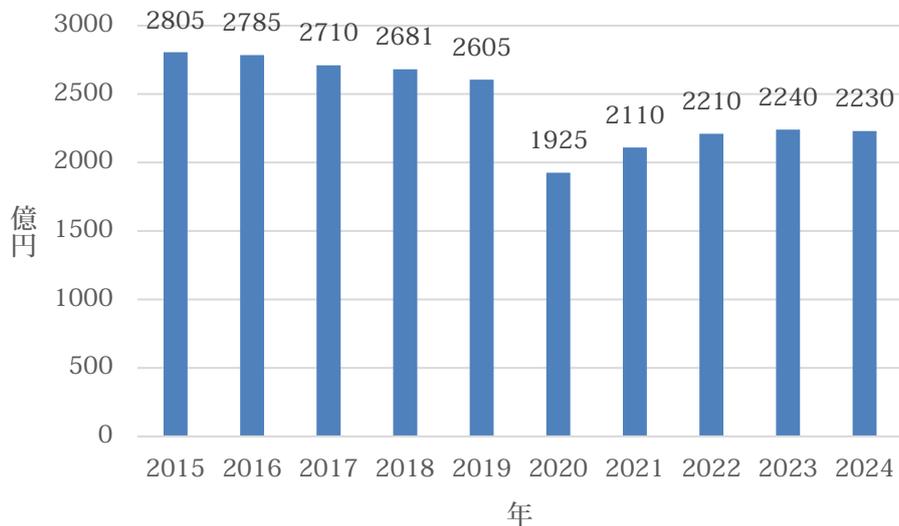


図 2.1 呉服小売市場規模の推移

注：数値にはリサイクル着物などは含まれるが、着物レンタルは含まれない。また 2024 年の数値は予測値である。

出典：矢野経済研究所（2024）

⁶ データは総務省統計局「家計調査」(<https://www.e-stat.go.jp/>)より入手した。

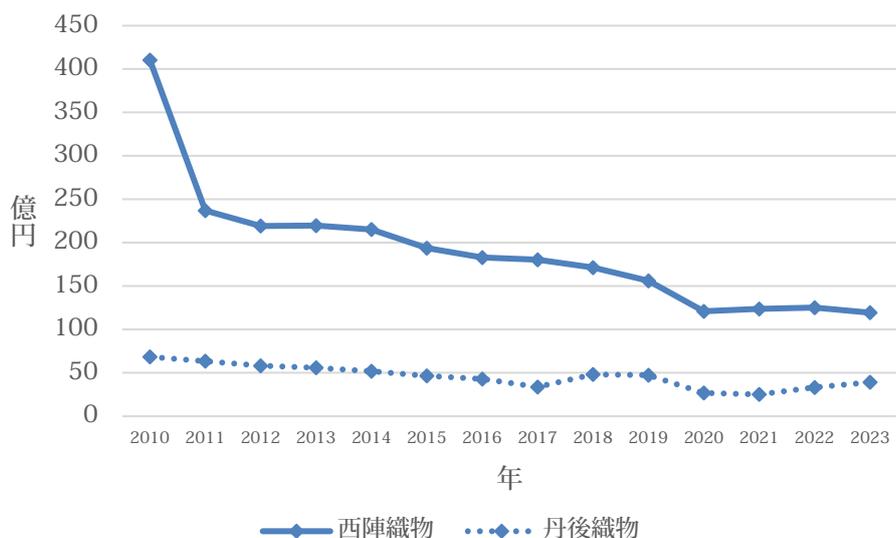


図 2.2 西陣織物と丹後織物の出荷額の推移
 出典：京都府総合政策環境部（2024）より筆者作成

戦前までは普段着として着られていた着物は、現在では成人式や卒業式、結婚式などの特別な行事でのみ着用されるのが一般的である（マイボイスコム，2022；梨花和服・花乃和服，2024）。マイボイスコム（2022）の調査によれば、着物を着る頻度が年1回以上の人は約8.4%にとどまっている。こうした状況の背景には、着付けの難しさや洋服と比べて機能性に欠けるといった実用面での課題があるものと思われる。少子化や核家族化など家族形態の変化によって、世代間で着物の着付け方が伝承されないことも無視できない要因の一つである（文化庁，2024）。

2.5 着物レンタル市場の拡大と着物に対する潜在需要

着物市場が縮小する一方で、着物レンタル市場は近年拡大する傾向にある。図 2.3 は着物レンタルの市場規模の推移を表すものであり、この図からその拡大傾向が確認される（矢澤他，2023）。またマイボイスコム（2022）の調査によると、着物を着る際、「自分の着物」を用意した人が41.5%で最も高く、次いで「レンタルした」人が40.3%を占めた。この結果は、着用する人の数で見れば、着物レンタルの市場が着物そのものの市場に匹敵するほど大きくなっている現状を物語る。

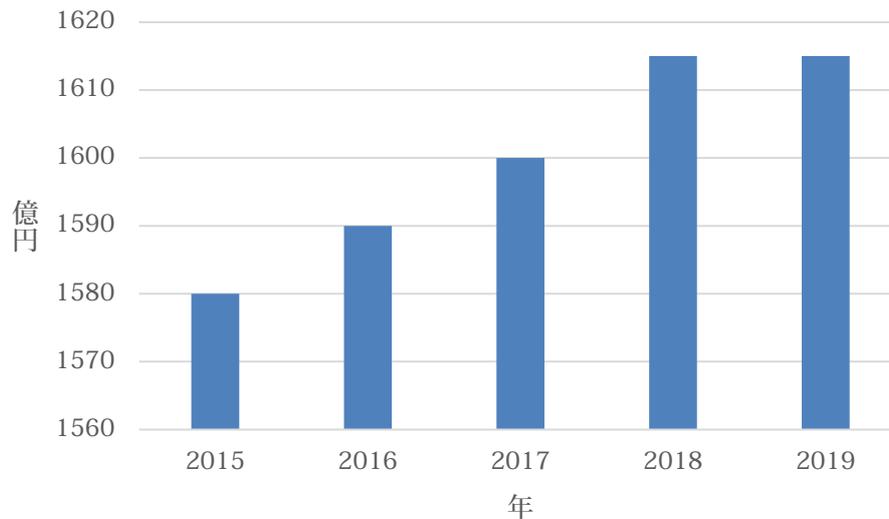


図 2.3 着物レンタル市場の推移

出典：矢野経済研究所（2019）。矢澤他（2023）の記述をもとに筆者作成

こうした着物レンタル市場の成長は、普段着としての着物の着用には潜在的な需要があることを示唆している。そしてそれは若年層により強くみられる傾向である。マイボイスコム（2022）の調査では、着物を「着たいと思う」「まあ着たいと思う」人は全体の約 25%を占めていたが、10～30 代の女性に限ればその割合は 5～6 割に上る。また和装振興研究会（2015）の調査においても、20 代、30 代の女性に着物の着用意向が高いことが示されている。

この傾向を確認するため、本研究では当ゼミに所属する大学生⁷を対象に、現在の着物の利用実態や利用意向を調査した。表 2.2 は着物の着用経験を複数回答で質問した結果である。「レンタルした浴衣で散策、食事、イベントなどに出かけたことがある」が 33.3%と最も高い割合を占めており、次いで「レンタルしたカジュアルな着物（浴衣を除く）で散策、食事、イベントに出かけたことがある」が 24.4%を占めた。この結果から、大学生のカジュアルな着物の着用に対する需要と、そのために着物レンタルサービスが利用されている実態が確認される。さらに、カジュアルな着物を着用した経験がある人は全体の 55.6%と過半数を占めており（表 2.3）、大学生の間にカジュアルな着物を着て外出したいと思う人に至っては全体の 9 割近くを占める結果となった（表 2.4）。これらの結果は、若い層の間に普段着として着られるようなカジュアルな着物に対する潜在的な需要が少なからず存在

⁷ 45 人の学生が調査に協力した。学年の構成は 2 回生 16 人、3 回生 17 人、4 回生 12 人、性別の構成は男性 15 人、女性 30 人であった。

することを示すものであり、着物の着用促進に向け、若者をターゲットに需要を喚起するアプローチが有効であることを含意する。

表 2.2 大学生の着物の着用経験（複数回答）

	度数	%
自分が所有する浴衣で散策、食事、イベントなどに出かけたことがある	11	24.4%
レンタルした浴衣で散策、食事、イベントなどに出かけたことがある	15	33.3%
自分が所有するカジュアルな着物（浴衣を除く）で散策、食事、イベントなどに出かけたことがある	0	0.0%
レンタルしたカジュアルな着物（浴衣を除く）で散策、食事、イベントなどに出かけたことがある	11	24.4%
自分が所有するフォーマルな着物で結婚式、成人式などの式典に出席したことがある	10	22.2%
レンタルしたフォーマルな着物で結婚式、成人式などの式典に出席したことがある	5	11.1%
いずれもない	5	11.1%
有効回答数	45	100.0%

出典：筆者作成

表 2.3 大学生のカジュアルな着物の着用回数

	度数	%
0回	20	44.4%
1回	11	24.4%
2回	6	13.3%
3回	8	17.8%
合計	45	100.0%

出典：筆者作成

表 2.4 大学生のカジュアルな着物の利用意向

	度数	%
カジュアルな着物を着て外出したいと思う	39	86.7%
カジュアルな着物を着て外出したいと思わない	6	13.3%
合計	45	100.0%

出典：筆者作成

若年層の着物に対する関心が高まった背景には、ソーシャルメディア（SNS）の普及があるものと思われる。近年 SNS で着物の着こなしを紹介するアカウントが増えており（ゆめや, 2025；着物堂, 2022）、フォトグラファーの「さんかく」さんのような着物インフルエンサーも現れている⁸。こうした SNS での着物の情報発信が広がれば、それが若者の着物文化への興味を呼び起こし、着物の着用を促す方向に作用するものと期待される。

2.6 ESD とは

本研究の仮説は、現代のファッション産業が引き起こす環境負荷や着物のサステナブルファッションとしての特徴を人々に伝えれば、着物に対する需要が高まるというものである。こうした環境情報の提供は、持続可能な社会の実現を目指す学習・教育活動、すなわち ESD（持続可能な開発のための教育）の一環として捉えられる。現在、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大など人類の開発活動に起因する様々な問題が存在する。ESD は、これら現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代に渡って豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動の変容をもたらし、持続可能な社会を実現することを目指している（文部科学省, 2024）。ESD は、2002 年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」において日本が提唱した考え方であり、現在はユネスコを主導機関として国際的に取り組まれている。

ESD はまた、近年注目を集めている SDGs と深い関係をもつ。SDGs（Sustainable Development Goals）は「持続可能な開発目標」と訳され、2015 年の国連サミットにおいて、先進国を含む国際社会全体が目指すべき目標として採択された。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、2030 年を期限とする包括的な 17 の目標及び 169 のターゲットにより構成される。ESD は、SDGs 中の目標 4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット 4.7 に位置づけられるが、第 74 回国連総会において、持続可能な開発目標を達成するために不可欠な質の高い教育の実現に貢献するものとして、SDGs の全ての目標の実現に寄与するものであることが確認されている（文部科学省, 2024）。

⁸ Instagram アカウント@sankak_kimono を参照

2.7 ESD による行動変容の可能性

着物に関する環境情報提供が着物に対する需要を高めるかどうかは、消費者が環境・社会問題に対して強い関心を持つことがカギとなる。この点について、ボストンコンサルティンググループ（2024）の調査結果がポジティブな傾向を伝えてくれる。ボストンコンサルティンググループは 2021 年以降、日本全国に住む 15 歳から 69 歳までの消費者を対象に「サステナブルな社会の実現に関する消費者意識調査」を継続的に実施している。その第 8 回の結果によれば、「地球温暖化／気候変動問題に興味がある」人は約 65% を占めており、その割合は調査開始以降ほぼ一定の水準で推移している。この結果は、近年日本の消費者の環境意識は高水準で維持されていることを示すものであり、ESD によって着物に対する需要が呼び起こされる可能性を期待させる。

また、同調査において、「環境負荷の少ない商品を買いたい」と回答した人は全体の 66% を占め、そのうち「環境負荷の少ない商品を選んで」と回答した人は約半分の 31% を占めた。「環境負荷の少ない商品に対する購入意欲はあるが、行動に踏み出せていない」と回答した人々にその理由を聞いたところ、「どの商品が環境負荷の少ない商品なのかよくわからないから」が 56% と最も高い結果となった。これは、環境負荷の少ない商品の購入に踏み出せない理由は「情報不足」にあることを示すものである。環境情報の提供は人の行動を環境配慮型へと動かす力をもっており、着物の普段使いの促進にも寄与することが期待される。

2.8 先行研究：ESD による古着需要の増大

当ゼミでは、今回のプロジェクトに先立って、同年春学期にファッション産業が引き起こす環境負荷に関する情報が、古着に対する支払意思額にどのような影響を与えるかを分析した。具体的には、新品では 1 万円で販売されるデニムのジーンズを古着で購入する状況を想定し、その古着のジーンズに対する支払意思額を質問した後で、ファッション産業の環境負荷に関するデータを提示し、再度支払意思額を問うことで、環境情報が人々の支払意思額に与える効果を計測した。また、古着利用による環境負荷低減効果に対して「全く効果的でない」を「1」、「とても効果的」を「5」として 5 段階で評価してもらい、その認識の変化と支払意思額の変化との間の関連性を分析した。

分析の結果、古着に対する支払意思額の平均値は、環境情報提供前の 5423 円から提供後には 6004 円へと約 10.7% 上昇した。加えて、古着利用の環境負荷低減効果に対する平均評点値も、情報提供前の 3.94 から提供後には 4.27 に上昇し、支払意思額の変化と整合する傾向が得られた。これらの結果から、人々はファッション産業が抱える環境問題を理解す

ることで、古着の環境負荷低減効果を認識し、その価値をより高く評価することが結論付けられる。また、環境情報の提供によって古着に対する支払意思額の分散が増加する傾向も観察された。これは、情報提供を通じて人々の環境意識が醸成され、個人の環境に対する選好の多様性が顕在化したことによるものと考えられる。

以上の研究成果は、ESD によって着物に対する需要が高まる可能性を示唆する。上述の通り、着物もまた洋服の古着と同様に持続可能な社会の実現に貢献するサステナブルファッションである。環境情報の提供により人々が古着利用の社会的意義をより強く認識し、古着に対する評価を高めるという知見は、ESD による着物需要の喚起を十分に期待させるものだといえよう。ただし、着物は洋服に比べて機能性に欠けるところがあり、現代の主流ファッションでもないため、洋服の古着よりもその効果は小さいかもしれない。一方で着物には日本の伝統文化としての魅力があり、上述のように着物レンタルに対する需要も観察されることから、より大きな効果が計測される可能性もある。本研究は ESD の効果が洋服の古着に限定されるものなのか、それとも着物需要についても当てはまり、より包括的に支持されるものなのかを見極める点で新規性があり、その点で学術的な貢献がある。

3. 分析手法

3.1 調査設計

本研究では、「普段使い」の観点から、着物に対する需要を計測するための指標として次の2つを考える。1つはアンティーク／リサイクル着物（古着の着物）に対する支払意思額である。着物市場が縮小する中、近年では比較的安価で手に入る古着の着物を販売する店舗が増えている。滋賀県大津市に店舗を構えられる kimono tento さんもその1つである。ここでは高級な着物だけでなく、5000円以下の気軽に着られる普段着の着物や帯も多く販売されている。こうした普段使いのアンティーク／リサイクル着物に対して最大いくらまで支払えるか、その支払意思額を着物に対する需要の大きさを測る指標として用いる。もう1つはレンタルを含む普段使いとしての着物の年間着用回数である。上述の通り、着物レンタルの市場は2015年以降継続的に拡大する傾向があり、若い世代を中心に気軽にカジュアルな着物を普段着として楽しみたいという意向が観察される。このような着物をレンタルして遊びに出かけるケースも含めて、着物の普段使いの頻度を問い、それを着物に対する需要を測る指標の1つとして使用する。

図3.1、図3.2はそれぞれアンティーク／リサイクル着物に対する支払意思額と着物の普段使いの頻度を問う質問である。支払意思額の対象となるアンティーク／リサイクル着物

としては、調査時期が11月下旬から12月上旬であることを考慮して衿を、普段使いであることから小紋を想定した。またデザインについては自分が気に入ったデザインが店舗で見つかった状況をイメージしてもらった。また支払意思額の質問においては、回答者に金額のリストを提示して、その中から自分が支払っても良いと思う最大の金額を選択してもらう支払カード（Payment Card）形式を採用した（栗山・馬奈木，2020）。本調査では、これらの支払意思額と着物の着用頻度を質問した後、ESDとして、ファッション業界が引き起こす環境負荷に関する情報と着物のエコフレンドリーな特性を、図3.3、図3.4のような質問を通して回答者に伝えた。そしてその後、図3.1、図3.2と同様の形で、再度古着の着物に対する支払意思額と着物の普段使いの頻度⁹の質問を繰り返した。

7. いま、着物ショップであなたが気に入ったデザインのアンティーク／リサイクル着物が販売されている状況を想像してください。あなたはその値段がいくらまでだったら、その着物を買いたいと思いますか？買ってよいと思う最大の金額を選択してください。※帯などは含まれません。

	商品情報	① 2000円 ② 4000円 ③ 6000円 ④ 8000円 ⑤ 1万円 ⑥ 12000円 ⑦ 14000円 ⑧ 16000円 ⑨ 18000円 ⑩ 2万円 ⑪ 22000円 ⑫ 24000円 ⑬ 26000円 ⑭ 28000円 ⑮ 3万円 ⑯ 32000円 ⑰ 34000円 ⑱ 36000円 ⑲ 38000円 ⑳ 4万円 ㉑ 2000円より低い値段なら購入を検討する ㉒ 金額によらず、古着の着物は買わない
	衿：10月～5月用	
	小紋：普段着用	
	正絹：絹100%	
	状態良好：見えな いところにやや難	

図3.1 アンティーク／リサイクル着物に対する支払意思額の質問

出典：筆者作成

4. あなたは現在、1年間にどれくらいの頻度で着物を着て外出されますか？問3のように着物をレンタルして遊びに出かけるケースを含みます。ただし、成人式、結婚式などの式典や特別な機会は除きます。なお「2年間に1回」のような場合は、回数を年で割って「0.5」のようにご回答ください。

1年間に（ ）回くらい

図3.2 普段使いとしての着物の着用頻度の質問

出典：筆者作成

⁹ 情報提供前は現在の着用頻度を質問しているが、情報提供後は「今後、1年間にどれくらいの頻度で着物を着て外出しようと思われますか？」と将来の着用頻度を質問した。

8. 近年、ファッション産業が環境に与える影響の大きさが指摘されています。以下の表は衣服の生産・消費・廃棄に伴う環境への負荷を整理したものです。

環境負荷	内容	
二酸化炭素の大量排出	衣服を1着生産する際に排出される二酸化炭素は約25.5kgと推計されています。これは500mlのペットボトルを約255本製造する際に排出される量に相当します。	 →  1着 255本
水の大量消費	衣服を1着生産するのに必要な水は約2300リットルと推計されています。これは風呂の浴槽約11杯分の量に相当します。	 →  1着 11杯
端材の大量排出	衣服の製造に伴って排出される端材は年間約4.5万トンに上ります。これは衣服約1.8億着分に相当します。	 1.8億着/1年
ゴミの大量廃棄	人が衣服を手放す際、その約68%が可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄されています。そしてその廃棄された衣類の95%が焼却・埋め立て処理されています。その量は1日当たり1200tに上り、大型トラック120台分に相当します。	 120台/1日

参考資料：

環境省 (2024) 「SUSTANABLE FASHION」 (https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/) 参照日：2024年11月10日

あなたはこれらのファッション産業が与える環境負荷をどれくらい深刻だと思いますか？最も高い深刻度を「5」として、それぞれ当てはまる数字に○を付けてください。

環境負荷	どれくらい深刻だと思いますか？
二酸化炭素の大量排出	←全く深刻ではない 1 … 2 … 3 … 4 … 5 とても深刻→
水の大量消費	←全く深刻ではない 1 … 2 … 3 … 4 … 5 とても深刻→
端材の大量排出	←全く深刻ではない 1 … 2 … 3 … 4 … 5 とても深刻→
ゴミの大量廃棄	←全く深刻ではない 1 … 2 … 3 … 4 … 5 とても深刻→

図 3.3 ファッション業界が引き起こす環境負荷に関する質問

出典：筆者作成

10. 着物は主に次の3点から、環境に優しいサステナブルファッションだといえます。

- (1) 細長い一反の布から直線的に裁断していくため、端切れがほとんど出ない。
- (2) 着物の形状は江戸時代から変わっておらず、流行に左右されにくいことから長く着られる。
- (3) 仕立て直しが可能であり、体型が変わっても長く着続けられる。

あなたはこれらの着物の環境に優しい特性をどれくらい魅力的だと思いますか？最も高い評価を「5」として、それぞれ当てはまる数字に○を付けてください。

環境に優しい特性	どれくらい魅力的だと思いますか？
端切れが出にくい	←全く魅力的でない 1 … 2 … 3 … 4 … 5 とても魅力的→
流行に左右されにくい	←全く魅力的でない 1 … 2 … 3 … 4 … 5 とても魅力的→
仕立て直しが可能	←全く魅力的でない 1 … 2 … 3 … 4 … 5 とても魅力的→

図 3.4 着物のエコフレンドリーな特性に関する質問

出典：筆者作成

今回設定した着物の需要を測る 2 つの指標、すなわちアンティーク／リサイクル着物に対する支払意思額と着物の普段使いの頻度は、それぞれ ESD が着物市場に与える直接的な効果と間接的な効果を見るための指標として捉えられる。環境情報の提供によって古着の着物に対する支払意思額が上昇すれば、それだけ人は着物を積極的に購入しようとするようになるため、それは（古着の）着物市場の拡大に直接的な効果を与えるといえる。一方で着物の着用頻度が上昇しても、着物市場への直接的な影響は期待されないが、着物と親しむ機会が増えることで、長期的にみて（間接的な効果として）ESD は着物市場の拡大に貢献することが期待される。

3.2 分析モデル

上述の着物に対する需要を測る 2 つの指標のうち、ESD が着物市場に与える直接的な効果を見るという点で、アンティーク／リサイクル着物に対する支払意思額はより重要な指標だといえる。本研究ではこの支払意思額を被説明変数とする関数を推定し、着物に対する需要を規定する個人の属性を探る。

支払カード形式により得られる支払意思額のデータは、ある金額より大きく、別のある金額よりも小さい区間データになる。例えば、上記の支払意思額の質問で「① 2000 円」を選択した人は、古着の着物に対して 2000 円を支払っても良いと思い、その次に大きな金額「② 4000 円」を支払いたくないと考えていることになるため、その人の古着の着物に対する支払意思額は 2000 円以上 4000 円未満と解釈される¹⁰。それゆえその支払意思額を規定する要因を分析する際には、被説明変数が区間データとなる区間回帰モデル（Interval Regression Model）¹¹を用いることが望ましい（Cameron, 1987；Cameron and Huppert, 1989）。支払意思額を規定する関数（以下 WTP 関数と呼ぶ）は一般に次のように定式化される。

$$WTP_i = \beta'x_i + \varepsilon_i \quad (3.1)$$

ここで WTP_i は個人 i の支払意思額、 x_i は個人 i の属性ベクトル、 β はその係数ベクトル、 ε_i は独立かつ同一で、平均 0、分散 σ^2 の正規分布に従う確率誤差項を表す。

¹⁰ 区間データにならず、上限あるいは下限がオープンになるケースもある。「② 4 万円」を選択した人については、それより大きな金額が用意されていないので、その人の支払意思額は 4 万円以上となる。また、「② 金額によらず、古着の着物は買わない」を選択した人の支払意思額は 0 円未満と解釈される。

¹¹ グループデータ回帰モデル（Grouped Data Regression Model）と呼ばれることもある（Cameron, 1987；Cameron and Huppert, 1989）。

上述の通り、支払カード形式のもとでは支払意思額のデータは点では得られず、それは $B_i^L \leq WTP_i < B_i^U$ の形で得られることになる。ここで B_i^L は個人 i の支払意思額の下限值、 B_i^U はその上限値を表している。このとき、個人 i の支払意思額が B_i^L 以上 B_i^U 未満に入る確率（尤度）は次式で表される。

$$\begin{aligned} P(B_i^L \leq WTP_i < B_i^U) &= P(B_i^L - \beta' \mathbf{x}_i \leq \varepsilon_i < B_i^U - \beta' \mathbf{x}_i) \\ &= P\left(\frac{B_i^L - \beta' \mathbf{x}_i}{\sigma} \leq z_i < \frac{B_i^U - \beta' \mathbf{x}_i}{\sigma}\right) \end{aligned} \quad (3.2)$$

ただし z_i は標準正規分布に従う確率変数である。標準正規分布関数を Φ で表し、(3.2) 式の z_i の両臨界値を z_i^L 、 z_i^U で表すと、(3.2) 式は $\Phi(z_i^U) - \Phi(z_i^L)$ と書き直すことができる。従って、このモデルにおける対数尤度関数 $\ln L$ は、観測値の数を N として

$$\ln L = \sum_{i=1}^N \ln(\Phi(z_i^U) - \Phi(z_i^L)) \quad (3.3)$$

と表され、この関数を用いて最尤法によりパラメータが推定される（寺脇拓ゼミ，2023）。

3.3 調査場所の選定

本研究は着物の普段使いの促進に焦点を合わせることから、着物を着て散策するのに適した場所をアンケートの調査地として選定した。その 1 つは滋賀県近江八幡市の八幡堀周辺である。八幡堀周辺は安土・桃山時代に豊臣秀次の八幡山城居城のもと開かれた城下町であり、近江商人の商家が建ち並ぶ滋賀県有数の歴史観光地である（近江八幡観光物産協会，2019）。時代劇のロケ地としても活用されており、潜在的には着物の着用意向が高い人々が訪れるものと期待されるが、実際に着物姿で街を訪れる人は極めて少なく、着物をレンタルできるような店舗も存在しない。それゆえ、その場所でアンケート調査を実施した場合に、回答者が着物を着て散策するという状況をイメージしにくい可能性がある。そこで本調査では、2024 年 11 月に着物の普段使いを促すイベント「八幡キモノコレクション」を八幡堀周辺にて開催し、その中でアンケート調査を実施した。その際には、回答者が着物姿で八幡堀を散策するイメージをもつことができるよう、調査員全員が着物姿でアンケート調査を行った¹²。加えて、そのイベントのメイン企画として、人々に古着の着物を身近に感じて

¹² 着物は梨花和服京都駅前店でレンタルした。

もらうために、誰でも自由に参加できる着物の交換会を開催した¹³。このイベントの詳細については次章で説明する。

さらに、同年 12 月には京都府京都市東山区にある円山公園でもアンケート調査を実施した。円山公園は、明治 19 年（1886 年）に開園した京都市内で最も古い公園であり（京都市都市緑化協会，2024）、文化財としての価値も高く、祇園の街中であって八坂神社と知恩院に隣接することから、京都の歴史情緒を楽しむ観光客が多く訪れる場所である。周辺には着物レンタルの店舗が軒を連ねており、結婚式や成人式の和装での前撮りにも使われる場所であることから、日々着物姿の人々で溢れている。このような場所を訪れる人々は、普段から着物に慣れ親しんでおり、着物姿での散策も容易に想像できるものと思われる。

4. 八幡キモノコレクションの開催

4.1 イベントの概要

当団体は 2024 年 11 月 16 日（土）、滋賀県近江八幡市の八幡堀周辺にて、着物の普段使いを促すイベント「八幡キモノコレクション」を開催した。ここでは、後述する着物交換会を開催した旧吉田邸を拠点に、八幡堀周辺の着物姿が映える 7 つのスポットで、調査員が全員着物姿でアンケート調査を行った。イベントの概要は表 4.1 のように整理される。当日はやや湿度が高く、一日中曇りの空模様であったが、気温も比較的高く、過ごしやすい気候の中でイベント開催することができた。

¹³ 滋賀県を中心に活動されている整理収納アドバイザー集団、Link しがさんとの共催で実施した。

表 4.1 八幡キモノコレクションの概要

イベント名	八幡キモノコレクション
日時	2024年11月16日(土) 11時~15時
会場	滋賀県近江八幡市八幡堀周辺(旧吉田邸:滋賀県近江八幡市多賀町758)
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 着物映えするスポットで調査員が着物姿でアンケート調査を実施 2. 着物交換会を開催 3. 協力店舗を着物姿で訪れた方に割引などの特典を提供 4. 着物姿映えする場所を紹介するマップ「八幡堀 着物映えマップ」を配布 5. 着物姿で訪れた方をインスタントカメラで撮影し、その写真をプレゼント 6. 明治橋あまなさんとのコラボで、着物姿に合うスイーツを当日限定販売 7. 着物の普段使いを促すパンフレット「キモノオシ」を配布
協力	Link しが、kimono tento、近江八幡観光物産協会、近江八幡市、八幡堀てふてふ幸せ道商店街

出典:筆者作成

表 4.2 イベント当日の彦根気象台の天候

	11月16日(土)	11月平均
平均気温	16.4℃	13.5℃
最高気温	18.9℃	17.3℃
最低気温	13.2℃	9.7℃
平均湿度	89%	74%
平均風速	1.5m/s	3.5m/s
降水量	0.0mm	-

出典:気象庁「過去の気象データ検索」

(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) より筆者作成

4.2 イベントの内容

八幡キモノコレクションは着物の普段使いの促進を目的とするイベントであり、着物に関心を持ってもらい、着物を着て八幡堀を訪れてもらえるよう様々な仕掛けを組み入れた。その内容は以下の7つから構成される。

着物姿でのアンケート調査 上述の通り、本調査では人々に着物姿で出かけるイメージをつかんでもらうため、22人からなる当団体メンバー全員が着物を着用してアンケート調査を行った(図4.1)。着用した着物は、梨花和服京都駅前店にてアンティーク調の着物をレ

ンタルした。調査場所は、八幡堀周辺の観光スポットを中心に、着物姿が映える場所を選定した。調査場所の一覧は表 4.3、図 4.2 の通りである。



図 4.1 アンケート調査の様子

出典：筆者撮影

表 4.3 アンケート調査場所一覧

調査場所	特徴
旧吉田邸	明治時代の古民家を改築した趣のある地域交流施設
白雲館	明治 10 年に八幡東学校として建てられた擬洋風建築
白雲橋	八幡堀を臨む有名な撮影スポット
旧八幡郵便局	大正 10 年に建てられたレトロ感溢れるヴォーリズ建築
明治橋あまな	老舗和菓子屋「和た与」が手掛ける和カフェ
ほりかふえ	八幡堀沿いにテラス席をもつ近江牛を中心とする食事処
たねや日牟禮乃舎	和菓子屋「たねや」が経営する茶店をイメージした甘味処

出典：筆者作成



図 4.2 アンケート調査場所

出典：筆者作成

上述の通り、八幡キモノコレクションの目的は着物の普段使いの促進にあり、当イベントでは多くの人々に八幡堀に着物を着て訪れてもらえるような仕掛けを多く用意した。それによって八幡堀周辺が着物姿の人々で溢れる光景を作り出し、着物を着ていない人にも着物で街を散策する楽しさを感じてもらいたいことを狙いとしている。調査員による着物姿でのアンケート調査は、その光景を生み出すことにも貢献する。

着物交換会の開催 当イベントのメイン企画は着物交換会である。着物交換会とは、着物や帯、和装小物を譲りたい人と欲しい人が一堂に集まり、それらを自由に交換してもらう会のことである。当イベントにおいては、滋賀県を中心に活動されている整理収納アドバイザー集団、Link しがさん¹⁴との共催により、この着物交換会を八幡堀に近い旧吉田邸で開催した。なお、持ち帰りは1人当たり5点までとし、1点あたり200円の協力金をいただいた。最終的に残ってしまった着物はカバンや洋服などにリメイクしてもらうことを計画しており、この協力金はその活動を行う団体への配送費用に充てられる予定である¹⁵。また当日、

¹⁴ 活動の詳細は Link しがさんのホームページ (<https://linkshiga.jimdofree.com/>) を参照

¹⁵ 今回残った着物は Link しがさんの次回の着物交換会で使ってもらおうこととなった。

希望者には手に入れた着物と帯を服の上から身に着けてそのまま八幡堀の街を散策していただけるよう、着付け師の方々にも常駐いただいた。



図 4.3 着物交換会の様子

出典：筆者撮影

着物交換会の参加者には退出時にアンケート調査にもご協力いただいた。次章で述べるように、その回答者の数は 33 と集計されたが、開場から予想をはるかに超える大勢の方々が旧吉田邸に押し寄せたため、人の誘導に追われて全ての来場者にアンケートへの協力を依頼することができなかった。少なく見積もっても参加者数は 100 人を超えていたように思われる。着物交換会に着物姿で訪れた方や手に入れた着物を着て散策に出られた方もおられ、八幡堀周辺には着物姿で歩く人が普段よりも多く見られた。

着物姿の方への特典 イベント当日に着物姿で八幡堀を訪れてもらうため、八幡堀でふてふ幸せ道商店街のご協力のもと、いくつかの店舗において着物姿で訪れた方を対象に割引などの特典サービスを提供していただいた。表 4.4 は協力店舗とその特典サービスの一覧である。

表 4.4 特典協力店舗とそのサービス

協力店舗	特典サービス
アトリエ藍 ギャラリースペース新町浜 ほりかふえ 明治橋あまな レアウッドビーズ美樹 八幡堀 石畳の小路店 Two Rabbits Brewing BEER HOUSE	商品お買い上げの 10%OFF お食事の方にコーヒー 1 杯サービス お食事(1800 円以上)ご注文の方にソフトドリンク 1 杯サービス コーヒー、または紅茶 1 杯サービス 手作り体験 10%OFF 最初の 1 杯 100 円割引 (ハーフポイント・ポイント)

出典：筆者作成

着物映えマップの配布 アンケートの調査場所では、回答者や希望者に八幡堀周辺の着物が映えるスポットを紹介するマップを配布した(図 4.4)。マップは A3 サイズで印刷され、逆面には着物交換会を紹介するチラシを印刷した。マップには上記のアンケート調査場所と着物姿で特典が受けられる店舗に加え、着物姿が映えるカフェを 6 店舗掲載した(表 4.5、図 4.4)。また、Google map 上に各スポットの位置情報を掲載し、スマートフォンなどのデバイスでその場所が確認できるよう QR コードを付けた。



図 4.4 八幡堀着物映えマップ

出典：筆者作成

表 4.5 八幡堀周辺の着物姿が映えるカフェ一覧

カフェ	特徴
菓子屋 mafika	土壁と木の温もりに包まれる古民家を改築したカフェ
仁之助コーヒー	町家を改築したレトロモダンな空間とサイフォンコーヒー
ティースペース茶楽	八幡堀の畔に隠れ家のように佇む土蔵を改築したカフェ
OZEN	ヴォーリス建築の伝統ある邸宅でフルーツパフェを提供
江湖庵	ハンコ屋さん併設された築200年の古民家カフェ
Kolmio cafe	町家と北欧装飾が絶妙に調和した古民家カフェ

出典：筆者作成



図 4.5 八幡堀周辺の着物姿が映えるカフェ

出典：筆者作成

インスタントカメラで着物姿を撮影 着物姿で八幡堀を訪れた人を対象にその姿をインスタントカメラ（チェキ）で撮影し、1枚無料でプレゼントした。撮影は着物交換会の会場である旧吉田邸、旧八幡郵便局、白雲橋周辺の3か所で行った。旧吉田邸では、撮影エリアを設けて和傘や草履など撮影用の小物を貸し出し、またカラーペンで写真をデコレーションするブースも設けた。その場で着物を試着された方も対象とし、特に若い世代に好評であった。

着物に合う和スイーツの販売 近江八幡を代表する老舗の和菓子屋「和た与」さんがプロデュースする和カフェ「明治橋あまな」とのコラボレーションにより、着物姿に合うスイーツを販売した。メニューはおいりソフト（税込 550 円）とむべフロート（税込 600 円）の2品である（図 4.6）。いずれも「おいり」と呼ばれる西讃岐に伝わる球状のカラフルなあられがトッピングされている。「むべ」は近江八幡市の奥島山に自生するアケビ科の果実で（滋賀ガイド、2020）、その鮮やかな赤紫色が華やかな着物とよく調和する。当日は明治橋あまなさんの御厚意により、店舗でアンケートに答えた方にはこれらの賞品を 100 円 OFF で提供した。



図 4.6 おいりソフト（左）とむべフロート（右）

出典：明治橋あまなさん提供

着物の普段使いを促すパンフレットの配布 今回当団体は、着物の普段使いを促すにあたって、着物の新しい楽しみ方と着物を通した学びをまとめたパンフレット「キモノオシ～キモノで遊び、キモノで学ぶ～」(フルカラー、A4 巻き三つ折り)を製作した。これは表紙を除いて5ページから構成され、その内容は表 4.6 のように整理される¹⁶。このパンフレットを上記の八幡堀着物映えマップとともにアンケートの回答者に配布した。

表 4.6 「キモノオシ～キモノで遊び、キモノで学ぶ～」の構成

頁	タイトル	内容
1	LECTURE1：キモノで学ぶ	ファッション産業が引き起こす環境負荷と着物がサステナブルファッションであることを学習
2	LECTURE2：キモノで歩く	滋賀県大津市でアンティーク/リサイクル着物を中心に販売されている kimono tento さんを紹介
3	LECTURE3：キモノで遊ぶ	SNS で着物の自由な楽しみ方を発信されている"さんかく"さんを紹介
4	LECTURE4：キモノで映える	着物姿が映える歴史観光地として滋賀県近江八幡市の八幡堀を紹介
5	着物の"普段使い"の普及に向けて	当団体の活動内容を紹介

出典：筆者作成

¹⁶ パンフレットの詳細は参考資料 F を参照

5. アンケート調査の概要と集計結果

5.1 調査の概要

前章で述べたように、当活動においては2024年11月16日（土）に滋賀県近江八幡市の八幡堀周辺で「八幡キモノコレクション」を開催し、旧吉田邸、白雲館、白雲橋周辺、旧八幡郵便局、明治橋あまな、ほりかふえ、たねや日牟禮乃舎にてアンケート調査を行った。さらにその翌月12月7日（土）には、京都市東山区にある円山公園でもアンケート調査を実施した。各調査の概要は表5.1の通りである。得られた観測値数は近江八幡市での調査が209、京都市での調査が137となり、全体の標本サイズは346であった。

表 5.1 調査概要

実施日：2024年	時間	エリア	場所	観測値数
11月16日（土）	11時～15時	近江八幡市	旧吉田邸	33
			白雲館	16
			白雲橋周辺	17
			旧八幡郵便局	30
			明治橋あまな	38
			ほりかふえ	32
			たねや日牟禮乃舎	43
			合計	209
12月7日（土）	10時～16時	京都市	円山公園	137

出典：筆者作成

調査票は全13問から構成され、問1～4は古着の着物に対する支払意思額と着物の普段使いの頻度を含む着物との関わりに関する質問、問8～10はESDとなる環境情報の提供を目的とした質問、問11～12は情報提供後の着物に対する需要を問う質問、問13は個人属性の質問である（表5.2）¹⁷。

¹⁷ 調査票の詳細は参考資料Gを参照

表 5.2 質問内容一覧

番号	質問内容
問 1	所有する着物の種類
問 2	所有する着物の枚数
問 3	着物レンタルサービスの利用経験
問 4	1 年間に着物を着て外出する回数
問 5	アンティーク着物などの古着の着物販売の認知
問 6	古着の着物の購入経験
問 7	古着の着物に対する支払意思額
問 8	ファッション産業が与える環境負荷の深刻度
問 9	サステナブルファッションの認知
問 10	着物の環境に優しい特性に対する魅力度
問 11	今後 1 年間に着物を着て外出しようと思う回数
問 12	古着の着物を買いたいと思う最大の金額
問 13	性別、年代、職業、居住地、1 ヶ月の衣服購入費

出典：筆者作成

5.2 集計結果

(1) 回答者属性

まず、回答者の社会経済属性を整理する。今回収集した情報は、性別、年代、職業、居住地、衣服購入費の 5 つである。

性別については女性が男性よりも圧倒的に多い。表 5.3 に示されるように、全体の性別構成は、男性が 28.3% であるのに対して女性は 68.8% を占めた。これは女性の方が男性よりも歴史的な街並みの散策を好む傾向を反映するものと思われる。調査地別にみてもこの傾向は変わらない。独立性の検定の結果、その検定統計量の値は 0.071、p 値は 0.791 となり、調査地間で回答構成に差がないという仮説は 10% 水準で棄却されなかった。

表 5.3 調査地別にみた性別

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
女性	142	67.9%	96	70.1%	238	68.8%
男性	60	28.7%	38	27.7%	98	28.3%
無回答	7	3.3%	3	2.2%	10	2.9%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

年代の分布については、全体的には幅広い年代からサンプルが構成されているが、近江八幡での調査では中高年の層が比較的多い。表 5.4 より、全体としては 20 歳代が 24.6%と最も多く、次いで 50 歳代が 17.1%、60 歳代が 15.9%を占めた。年代は概ね一様に分布しており、本調査結果は幅広い年齢層の意見を反映するものだといえよう。調査地別に見ると、京都では全体の傾向と同様に 20 歳代が最も多く、35.8%を占めるのに対して、近江八幡では 50 歳代が 22.5%と最も多い結果となった。これは今回開催した着物交換会に比較的年齢の高い層が多く参加されていたことが影響しているかもしれない。一方で京都の円山公園は祇園の街中であって、比較的若い層が観光に訪れる場所であるため、20 歳代が多くなったといえる。独立性の検定結果でも、検定統計量の値は 44.835、p 値は 0.000 となり、調査地間で回答構成に差がないという仮説は 1%水準で棄却された。

表 5.4 調査地別にみた年代

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
10 歳代	2	1.0%	16	11.7%	18	5.2%
20 歳代	36	17.2%	49	35.8%	85	24.6%
30 歳代	18	8.6%	11	8.0%	29	8.4%
40 歳代	37	17.7%	12	8.8%	49	14.2%
50 歳代	47	22.5%	12	8.8%	59	17.1%
60 歳代	36	17.2%	19	13.9%	55	15.9%
70 歳以上	22	10.5%	11	8.0%	33	9.5%
無回答	11	5.3%	7	5.1%	18	5.2%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

職業については、正規の職員・従業員（派遣社員を含む）と学生とで半数以上を占めている。表 5.5 より、全体では正規の職員・従業員が 36.7%と圧倒的に高い割合を占めており、次いで学生が 19.1%となっている。調査地別にみると、近江八幡では同様に正規の職員・従業員が 41.6%と最も高い割合を占めているが、次いで多いのはパート・アルバイトである。一方京都では、学生の割合が 31.4%と最も高く、正規の職員・従業員の割合は 29.2%にとどまっている。これらは表 5.4 で考察したように、近江八幡のサンプルには着物交換会に参加した比較的高い年齢層が含まれていること、そして京都での調査では比較的若い層が観光に訪れていたことが影響しているものと思われる。独立性の検定結果でも、検定統計量の値は 27.035、p 値は 0.000 となり、調査地間で回答構成に差がないという仮説は 1%水準で棄却された。

表 5.5 調査地別にみた職業

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
正規の職員・従業員 (派遣社員を含む)	87	41.6%	40	29.2%	127	36.7%
パート・アルバイト	32	15.3%	23	16.8%	55	15.9%
会社役員	12	5.7%	5	3.6%	17	4.9%
自営業	7	3.3%	7	5.1%	14	4.0%
学生	23	11.0%	43	31.4%	66	19.1%
専業主婦（主夫）	25	12.0%	7	5.1%	32	9.2%
無職	14	6.7%	9	6.6%	23	6.6%
無回答	9	4.3%	3	2.2%	12	3.5%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

回答者の居住地は当然のことながら調査地に大きく依存する。表 5.6 に示されるように、都道府県レベルでみると、近江八幡のサンプルでは滋賀県居住者が 28.7%と最も多く、次いで大阪府の居住者が 13.4%を占めた¹⁸。一方京都では大阪府居住者の割合が 26.3%と最も高くなり、次いで京都府が 15.3%を占める結果となった。京都市の調査において京都府民が最も多くならなかったのは、円山公園という観光地での調査であったことがその要因

¹⁸ 市町村単位での居住地の集計結果は参考資料 A を参照

として考えられる。独立性の検定結果でも、検定統計量の値は 87.033、p 値は 0.000 となり、調査地間で回答構成に差がないという仮説は 1%水準で棄却された。

表 5.6 調査地別にみた居住地（都道府県）

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
滋賀県	60	28.7%	11	8.0%	71	20.5%
大阪府	28	13.4%	36	26.3%	64	18.5%
京都府	18	8.6%	21	15.3%	39	11.3%
兵庫県	11	5.3%	18	13.1%	29	8.4%
愛知県	25	12.0%	2	1.5%	27	7.8%
東京都	13	6.2%	5	3.6%	18	5.2%
神奈川県	3	1.4%	9	6.6%	12	3.5%
奈良県	5	2.4%	6	4.4%	11	3.2%
岐阜県	8	3.8%	2	1.5%	10	2.9%
静岡県	6	2.9%	0	0.0%	6	1.7%
千葉県	3	1.4%	2	1.5%	5	1.4%
福岡県	0	0.0%	5	3.6%	5	1.4%
三重県	3	1.4%	2	1.5%	5	1.4%
徳島県	3	1.4%	1	0.7%	4	1.2%
福井県	4	1.9%	0	0.0%	4	1.2%
岡山県	1	0.5%	2	1.5%	3	0.9%
埼玉県	1	0.5%	2	1.5%	3	0.9%
石川県	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
香川県	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
熊本県	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
北海道	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
和歌山県	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
岩手県	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
島根県	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
無回答	14	6.7%	4	2.9%	18	5.2%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

1か月の衣服購入費は、3000円～5000円が最も多かった。表5.7に示されるように、全体としては、3000円～5000円が26.0%と最も高い割合を占め、その前後の階級、0円～3000円と5000円～7000円が16.8%と2番目に高かった。モデル百貨（2023）が20代から40代の男女1200人を対象に行った調査では、ファッションにかけるお金は月平均で5141円と計測されており、本調査もそれに近い値を示している。調査地別にみてもその傾向は変わらず、独立性の検定結果でみると、検定統計量の値は4.997、p値は0.544となり、調査地間で回答構成に差がないという仮説は10%水準でも棄却されなかった。

表 5.7 調査地別にみた月平均衣服購入費

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
0円～3000円	38	18.2%	20	14.6%	58	16.8%
3000円～5000円	48	23.0%	42	30.7%	90	26.0%
5000円～7000円	33	15.8%	25	18.2%	58	16.8%
7000円～1万円	37	17.7%	17	12.4%	54	15.6%
1万円～2万円	29	13.9%	24	17.5%	53	15.3%
2万円～3万円	5	2.4%	3	2.2%	8	2.3%
3万円以上	6	2.9%	3	2.2%	9	2.6%
無回答	13	6.2%	3	2.2%	16	4.6%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

(2) 着物との関わり

次に、着物の所有、購入、着用など、日々の着物との関わりに関する質問の回答を集計し、その結果を考察する。

着物の所有状況としては、浴衣を所有している人は半数近くいるものの、カジュアルな着物を所有する人は相対的に少ない。表5.8は自身が所有する着物を複数回答で回答してもらった結果である。全体としては浴衣を持っている人が47.4%と約半数を占め、浴衣を除く普段着、おしゃれ着として着るカジュアルな着物を持っている人は23.7%に止まった。式典などで着るフォーマルな着物を所有している人は40.2%を占めており、現在着物は特別なハレの日でしか着られていない状況を物語る。浴衣の所有率が高いのは、花火大会、お祭りなど、夏のイベントでよく着られている状況を表すものと予想され、これも日常とは異

なる特別な場面での着用ということになる¹⁹。調査地別に見ると、近江八幡ではカジュアルな着物を所有している人の割合が 31.1%に上るのに対して、京都では 12.4%と極めて低い割合を示している。これは、近江八幡では着物好きな人が着物交換会に訪れており、それらの人々がサンプルに含まれること、そして京都には着物レンタルショップが多く、必ずしも着物を所有しなくても着物を着る機会が多く存在していることが影響しているものと思われる。

表 5.8 調査地別にみた所有する着物（複数回答）

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
浴衣	114	54.5%	50	36.5%	164	47.4%
普段着、おしゃれ着として着る カジュアルな着物（浴衣を除く）	65	31.1%	17	12.4%	82	23.7%
式典などで着るフォーマルな着物	94	45.0%	45	32.8%	139	40.2%
持っていない	61	29.2%	60	43.8%	121	35.0%
その他	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
無回答	11	5.3%	6	4.4%	17	4.9%
有効回答数	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

所有している着物の枚数については、全体では 1 人当たり平均 8.10 枚所持しており、近江八幡では 9.51 枚、京都では 5.57 枚となった。近江八幡の方が京都よりも着物の所有枚数が多くなったのは、同様に近江八幡で開催した着物交換会に着物好きな人が集まったことと、京都で着物レンタル市場が成長していることによるものと考えられる。

着物レンタルサービスの利用については、その経験がない人が多かった。表 5.9 から、全体としては、着物レンタルサービスを利用したことがある人は 22.0%にとどまっており、利用したことがない人の 77.7%を大きく下回った。一方で調査地別にみると、近江八幡の調査において着物レンタルの利用経験がある人は 19.1%であったのに対して、京都ではその割合が 26.3%に上っている。これは上述の考察と同様に、京都において着物レンタルサービスを提供する店舗が多く存在することによるものと思われる。独立性の検定結果を見ると、検定統計量の値は 2.578、p 値は 0.108 となり、調査地間で回答構成に差がないとい

¹⁹ しんげん（2024）の調査によれば、浴衣を着る場面として最も多かったのが「花火大会」で 63%を占め、次いで「夏祭り」が 51.5%を占めた。

う仮説は 10%水準で棄却されないことになる。しかしながらその p 値は 0.1 に近い値を示していることから、弱いながらも京都の方が着物レンタルサービスの利用者が多いことが主張されよう。

表 5.9 調査地別にみた着物レンタルの利用経験

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
利用したことがある	40	19.1%	36	26.3%	76	22.0%
利用したことがない	169	80.9%	100	73.0%	269	77.7%
無回答	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

今回支払意思額の対象となるアンティーク着物やリサイクル着物が実際に販売されていることを知っている人は全体の過半数を占める。表 5.10 に示されるように、全体の傾向としては、古着の着物販売を知っている人は 55.8%、知らなかった人は 43.9% となり、若干ではあるが、知っている人が知らなかった人を上回る結果となった。調査地間で比較すると、その認知度は近江八幡で 58.9%、京都で 51.1% と近江八幡のサンプルの方が高い。これは近江八幡のサンプルに着物交換会の参加者が含まれることが影響しているものと考えられる。ただし、独立性の検定結果を見ると、検定統計量の値は 2.166、p 値は 0.141 となり、調査地間で回答構成に差がないという仮説は 10%水準で棄却されなかった。

表 5.10 調査地別にみた古着の着物販売の認知度

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
知っている	123	58.9%	70	51.1%	193	55.8%
知らなかった	85	40.7%	67	48.9%	152	43.9%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

古着の着物販売の認知度が 5 割を超える一方で、そうした着物を購入した経験がある人は極めて少ない。表 5.11 より、全体としては、購入経験がある人は 13.3% となり、購入し

たことがない人の 86.7%を大きく下回っていることがわかる。調査地別にみると、古着の着物を購入した経験がある人の割合は、近江八幡では 19.1%、京都では 4.4%と近江八幡のサンプルが相対的に高い値を示している。この結果もまた、これまでの考察と同様に、近江八幡のサンプルには開催した着物交換会の参加者が含まれることが影響しているものと思われる。独立性の検定においても、検定統計量の値は 15.638、p 値は 0.000 となり、調査地間で回答構成に差がないという仮説は有意水準 1%で棄却された。

表 5.11 調査地別にみた古着の着物の購入経験

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
購入したことがある	40	19.1%	6	4.4%	46	13.3%
購入したことがない	169	80.9%	131	95.6%	300	86.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

(3) サステナブルファッションとしての着物に対する評価

第 3 章で述べたように、本研究ではアンティーク／リサイクル着物に対する支払意思額と着物の普段使いの頻度を質問した後、ESD として、ファッション業界が引き起こす環境負荷に対する深刻さと着物のエコフレンドリーな特性に対する魅力を質問することで、それらの情報提供を行った。以下ではそれらの質問に対する回答を集計し、人々がサステナブルファッションとしての着物をどれほど評価しているのかを考察する

本調査では、ファッション業界が引き起こす環境負荷として、二酸化炭素の大量排出、水の大量消費、端材の大量排出、ゴミの大量廃棄の 4 つを取り上げ、それらに対する深刻度を質問した。その結果は、人々はそれらのいずれの問題についても極めて深刻だと認識していることを示している。図 5.1 は、各環境・資源問題に対して「とても深刻」を「5」、「全く深刻ではない」を「1」として、回答者に 5 段階で評価付けしてもらった結果である。より詳細な情報は、表 5.12～表 5.15 に示されている。これらの図表からわかるように、全体で見るといずれの問題についても「5」を付けた人が最も多く、次いで「4」が選択され、「1」「2」を付ける人はほとんどいなかった。「4」「5」を選択した人の割合は、7 割から 8 割に上っており、人々はそれらを深刻な問題と捉えていることがわかる。中でも深刻だと認識されているのはゴミの大量廃棄の問題である。無回答を除き、評点値をそのまま使って平均を計算したところ、そのスコアは二酸化炭素の大量排出が 4.06、水の大量消費が

3.97、端材の大量排出が 4.07、ゴミの大量廃棄 4.37 となった。調査地間で比較しても、ファッション産業が引き起こす環境・資源問題に対する人々の認識の傾向は変わらない。独立性の検定における検定統計量の値は、二酸化炭素の大量排出については 4.268 (p 値は 0.511)、水の大量消費については 3.160 (p 値は 0.531)、端材の大量排出については 4.525 (p 値は 0.340)、ゴミの大量廃棄については 0.790 (p 値は 0.940) となり、それぞれ回答構成に差がないという仮説は、有意水準 10%でも棄却されなかった²⁰。

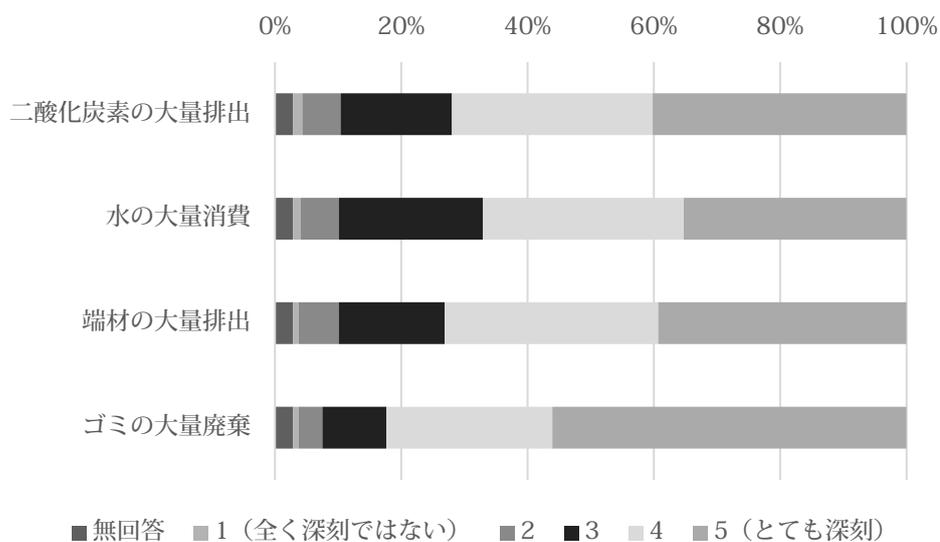


図 5.1 ファッション産業が引き起こす環境問題の深刻度

出典：筆者作成

²⁰ 調査地別の平均スコアは、二酸化炭素の大量排出については近江八幡調査が 4.04、京都調査が 4.10、水の大量消費については近江八幡調査が 3.97、京都調査が 3.96、端材の大量排出については近江八幡調査が 4.07、京都調査が 4.08、ゴミの大量廃棄については近江八幡調査が 4.34、京都調査が 4.41 であった。

表 5.12 調査地別にみたファッション産業が引き起こす環境問題の深刻度
(二酸化炭素の大量排出)

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (全く深刻ではない)	4	1.9%	1	0.7%	5	1.4%
2	11	5.3%	10	7.3%	21	6.1%
3	41	19.6%	20	14.6%	61	17.6%
4	62	29.7%	48	35.0%	110	31.8%
5 (とても深刻)	82	39.2%	57	41.6%	139	40.2%
無回答	9	4.3%	1	0.7%	10	2.9%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

表 5.13 調査地別にみたファッション産業が引き起こす環境問題の深刻度
(水の大量消費)

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (全く深刻ではない)	3	1.4%	1	0.7%	4	1.2%
2	15	7.2%	6	4.4%	21	6.1%
3	42	20.1%	37	27.0%	79	22.8%
4	65	31.1%	45	32.8%	110	31.8%
5 (とても深刻)	75	35.9%	47	34.3%	122	35.3%
無回答	9	4.3%	1	0.7%	10	2.9%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

表 5.14 調査地別にみたファッション産業が引き起こす環境問題の深刻度
(端材の大量排出)

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (全く深刻ではない)	2	1.0%	1	0.7%	3	0.9%
2	16	7.7%	6	4.4%	22	6.4%
3	34	16.3%	24	17.5%	58	16.8%
4	62	29.7%	55	40.1%	117	33.8%
5 (とても深刻)	86	41.1%	50	36.5%	136	39.3%
無回答	9	4.3%	1	0.7%	10	2.9%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

表 5.15 調査地別にみたファッション産業が引き起こす環境問題の深刻度
(ゴミの大量廃棄)

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (全く深刻ではない)	2	1.0%	1	0.7%	3	0.9%
2	9	4.3%	4	2.9%	13	3.8%
3	22	10.5%	13	9.5%	35	10.1%
4	53	25.4%	38	27.7%	91	26.3%
5 (とても深刻)	115	55.0%	79	57.7%	194	56.1%
無回答	8	3.8%	2	1.5%	10	2.9%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

「サステナブルファッション」という言葉については、多くの人々に認知はされているものの、その定義まで知っている人は少ない。表 5.16 に示されるように、全体としてはサステナブルファッションの言葉を聞いたことがある人は 51.7%を占めているが、おおよその定義まで知っている人は 19.4%しかいなかった。調査地間で比較しても大きな違いは見られない。京都のサンプルでは言葉を知っている人が近江八幡よりも若干多い結果となったが、回答構成は概ね似通っている。独立性の検定でも、検定統計量の値は 0.740、p 値は 0.691 となり、調査地間で回答構成に差がないという仮説は 10%水準で棄却されなかった。

表 5.16 調査地別にみたサステナブルファッションの認知度

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
おおよその定義まで知っている	41	19.6%	26	19.0%	67	19.4%
言葉は聞いたことがある	100	47.8%	79	57.7%	179	51.7%
知らなかった	58	27.8%	31	22.6%	89	25.7%
無回答	10	4.8%	1	0.7%	11	3.2%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

本調査では、着物の環境にやさしい特性として、端切れが出にくいこと、流行に左右されにくいこと、仕立て直しが可能であることの3つを取り上げ、それらに対する魅力度を質問した。その結果、これらの特性は総じて人々に高く評価されており、着物がサステナブルファッションとしての魅力を備えた衣類であることが確認される。図 5.2 は、着物の各特性に対して「とても魅力的」を「5」、「全く魅力的でない」を「1」として、回答者に5段階で評価付けしてもらった結果である。より詳細な情報は、表 5.17～表 5.19 に示されている。これらの図表からわかるように、全体ではいずれのエコフレンドリーな特性についても「5」を付けた人が最も多く、次いで「4」が選択され、「1」「2」を付けた人はそれらを合わせても10%に満たなかった。「4」「5」を選択した人の割合は約7割を占めており、人々は着物をサステナブルファッションとして高く評価していることがわかる。3つの特性の中では端切れが出にくいことよりも、流行に左右されにくいこと、仕立て直しが可能であることが比較的高く評価されている。無回答を除き、評点値をそのまま使って平均を計算したところ、そのスコアは端切れが出にくいことが4.03、流行に左右されにくいことが4.10、仕立て直しが可能であることが4.19となった。平均スコアが相対的に高い2つの特性はいずれも着物が長く着られる衣服であることを示す特徴であり、これは現代ファッションが抱える「短命化」の課題に対して着物がその解決の糸口になることを示唆する。調査地間で比較しても、着物のサステナブルファッションとしての特性に対する評価の傾向は変わらない。独立性の検定における検定統計量の値は、端切れが出にくいことについては2.630 (p値は0.621)、流行に左右されにくいことについては4.971 (p値は0.290)、仕立て直しが可能であることについては1.865 (p値は0.761)となり、それぞれ回答構成に差がないという仮説は、有意水準10%で棄却されなかった²¹。

²¹ 調査地別の平均スコアは、端切れが出にくいことについては近江八幡調査が4.05、京都調査が4.00、流行に左右されにくいことについては近江八幡調査が4.15、京都調査が4.01、仕立て直しが可能である

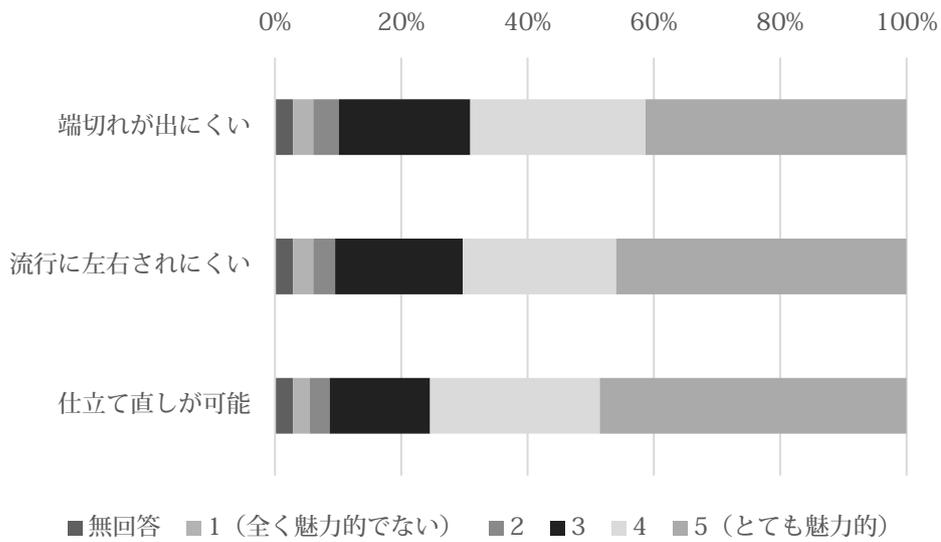


図 5.2 着物の環境に優しい特性に対する評価

出典：筆者作成

表 5.17 調査地別にみた着物の環境に優しい特性に対する評価（端切れが出にくい）

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1 (全く魅力的でない)	5	2.4%	6	4.4%	11	3.2%
2	10	4.8%	4	2.9%	14	4.0%
3	44	21.1%	28	20.4%	72	20.8%
4	54	25.8%	42	30.7%	96	27.7%
5 (とても魅力的)	89	42.6%	54	39.4%	143	41.3%
無回答	7	3.3%	3	2.2%	10	2.9%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

ことについては近江八幡調査が 4.16、京都調査が 4.23 であった。

表 5.18 調査地別にみた着物の環境に優しい特性に対する評価（流行に左右されにくい）

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1（全く魅力的でない）	5	2.4%	6	4.4%	11	3.2%
2	5	2.4%	7	5.1%	12	3.5%
3	45	21.5%	25	18.2%	70	20.2%
4	46	22.0%	38	27.7%	84	24.3%
5（とても魅力的）	101	48.3%	58	42.3%	159	46.0%
無回答	7	3.3%	3	2.2%	10	2.9%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

表 5.19 調査地別にみた着物の環境に優しい特性に対する評価（仕立て直しが可能）

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
1（全く魅力的でない）	5	2.4%	4	2.9%	9	2.6%
2	8	3.8%	3	2.2%	11	3.2%
3	36	17.2%	19	13.9%	55	15.9%
4	53	25.4%	40	29.2%	93	26.9%
5（とても魅力的）	100	47.8%	68	49.6%	168	48.6%
無回答	7	3.3%	3	2.2%	10	2.9%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

（4）着物交換会の実施結果

今回、旧吉田邸で実施した着物交換会に参加された方には、表 5.2 に示される質問に加えて、その着物交換会に関する質問を追加で行った。以下、その集計結果を整理し、着物交換会の実施結果の把握に取り組む。前章で述べたように、開場から予想以上に多くの人々が旧吉田邸に押し寄せたため、調査員が誘導に追われて全ての来場者にアンケートに回答いただくことができなかった。旧吉田邸で集められたサンプルのサイズは 33 であったが、おそらく参加者は 100 人を超えていたものと思われる。

着物交換会参加者の個人属性は表 5.20 と表 5.21 に整理されている。まず表 5.20 は性別、年代、職業の単純集計結果を要約したものである。近江八幡調査の全サンプルと比べて、さらに女性が多く、高い年齢層に偏っていることがわかる。職業については学生の割合が低

いことを除けば、全サンプルと大きく異なるものではなかった。居住地については、表 5.21 に示されている通り、地元の近江八幡市居住者が最も多く、約 4 割を占めた。一方で近江八幡市以外の滋賀県居住者や県外者も含まれており、このようなイベントが希少で、遠方に住む人々にとっても魅力的なものであったことを示唆する。

表 5.20 着物交換会参加者の個人属性

	度数	%
性別		
女性	26	78.8%
男性	7	21.2%
年代		
10 歳代	0	0.0%
20 歳代	5	15.2%
30 歳代	5	15.2%
40 歳代	9	27.3%
50 歳代	6	18.2%
60 歳代	6	18.2%
70 歳以上	1	3.0%
無回答	1	3.0%
職業		
正規の職員・従業員 (派遣社員を含む)	16	48.5%
パート・アルバイト	7	21.2%
会社役員	2	6.1%
自営業	2	6.1%
学生	2	6.1%
専業主婦 (主夫)	3	9.1%
無職	1	3.0%
合計	33	100.0%

出典：筆者作成

表 5.21 着物交換会参加者の居住地

	度数	%
滋賀県	27	81.8%
近江八幡市	13	39.4%
大津市	7	21.2%
湖南市	2	6.1%
東近江市	2	6.1%
草津市	1	3.0%
守山市	1	3.0%
野洲市	1	3.0%
千葉県	2	6.1%
大阪府	2	6.1%
兵庫県	2	6.1%
合計	33	100.0%

出典：筆者作成

着物交換会の参加目的としては、着物を譲りに来た人よりももらいに来た人の方が若干多かった。表 5.22 はその参加目的を複数回答で質問した結果である。この表に示されるように、着物や帯などをもらいに来た人の割合が 42.4% と最も高く、着物や帯などを譲りに来た人の 36.4% を上回った。需要が供給を上回っていたことになるが、Link しがさんのご協力もあって、事前に着物を集めていたことから、着物は常に用意されている状態で、交換会自体は滞りなく進められた。また、通りすがりに立ち寄った人は 1 割以下であり、多くの参加者がこの会の開催を認識の上、着物の譲渡、持ち帰りを目的に参加されていた。上記の通り 100 名以上の参加があったものと思われ、当イベントの開催は十分に周知できていたといえる。

表 5.22 着物交換会の参加目的（複数回答）

	度数	%
着物や帯などを譲りに来た	12	36.4%
着物や帯などをもらいに来た	14	42.4%
着物交換会を見学に来た	11	33.3%
通りすがりに立ち寄った	3	9.1%
その他	1	3.0%
無回答	3	9.1%
有効回答数	33	100.0%

出典：筆者作成

着物交換会に参加した人が持ち帰ったものとしては、やはり着物と帯が多かった。表 5.23 に示されるように、着物と帯が同数で最も多く、約半数を占めている。また、持ち帰らなかった人は 10 人、無回答は 3 人であり、この表から少なくとも 20 人が着物類を持ち帰ったことがわかる。ここで表 5.22 を見返すと、着物や帯などをもらいに来た人は 14 人であったため、参加前には着物類を持ち帰ろうとは考えてなかった 19 人のうちの 6 人、割合でみて 3 割強の人が着物類を持ち帰ったことになる。これは、当着物交換会への参加を通して、着物を持ち帰りたいという思いが生まれた人が一定数いることを示すものであり、着物の普及を促す上で、こうした着物交換会の有効性が主張される。

表 5.23 着物交換会で持ち帰ったもの（複数回答）

	度数	%
着物	16	48.5%
帯	16	48.5%
着物・帯以外の小物	5	15.2%
持ち帰らなかった	10	30.3%
その他	0	0.0%
無回答	3	9.1%
有効回答数	33	100.0%

出典：筆者作成

今回開催した着物交換会に対する参加者の評価は極めて高いものであった。表 5.24 は、当会に対する満足度を「とても満足」を「5」、「とても不満」を「1」として、回答者に 5 段階で評価付けしてもらった結果である。この表から「5」の評価を付けた人の割合が 42.4%

と最も高く、次いで「4」が27.3%を占めていることがわかる。「4」と「5」を合わせた割合は約7割となり、過半数の回答者が着物交換会に対して高い満足度を示している。

表 5.24 着物交換会に対する満足度

	度数	%
1 (とても不満)	1	3.0%
2	1	3.0%
3	4	12.1%
4	9	27.3%
5 (とても満足)	14	42.4%
無回答	4	12.1%
合計	33	100.0%

出典：筆者作成

なお、高い満足感を示した人からは、「自分の着物と交換できるのがありがたかった」「自分が着ない着物を廃棄ではなく、譲ることができる場を探していた」など、着物の提供場所として当イベントを高く評価する声が上がられた。また「普段、着物にたずさわっているので、このような機会にめぐり逢えてとても嬉しかった」「甲冑を手作りしておもてなし活動をしている。今回、色目の合う生地を手に入れられた」など、普段から着物に携わっておられる方々からのポジティブな評価も頂いた。着物の量については意見が分かれ、「思っていた以上に着物があった」という肯定的な意見があった一方で、「品数がもう少し多いと良かった」と不満の声も上げられていた²²。

6. ESD が着物需要に与える効果の検証

6.1 データ

本研究では ESD が着物市場に与える直接的な効果を測る指標として、アンティーク／リサイクル着物に対する支払意思額を、間接的な効果を測る指標として着物の普段使いの頻度を採用した。第 3 章で述べたように、支払意思額については本調査ではそれを支払カード形式で質問し、図 3.1 に示されるように、2000 円から 4 万円まで 2000 円刻みで選択肢を提示した。このような形式により得られる支払意思額のデータは基本的に区間データと

²² 着物交換会に対する感想や意見の詳細は参考資料 D と E を参照

なるため、その分布をみる際には各区間を階級とする度数分布表によりこのデータを集計し、その度数分布表から代表値（平均値、中央値）を近似的に求めることになる。一方で着物の普段使いの頻度については、図 3.2 に示されるように、年間着用回数を数量回答形式で質問し、「2年に1回」のようになる場合は、回数を年で割って「0.5」のように回答してもらった。着物の着用回数の分布は「0～1」「1～2」のように「1回」を1つの階級とする度数分布表により集計し、代表値については得られた数量データから直接計算する。

なお、以下では環境情報の提供による支払意思額と着用頻度の変化をみることを主な目的とするため、使用するサンプルを情報提供前後の支払意思額と着用頻度の質問すべてに回答した回答者のデータに限定した。この処理は 6.5 の支払意思額の規定要因を探る分析を除き、本章を通して共通している。その結果、サンプルのサイズは全体で 299 となり、調査地別にみると近江八幡市は 180、京都市は 119 となった。

6.2 環境情報が支払意思額に与える影響

(1) 全体の傾向

図 6.1、図 6.2 はそれぞれ、環境情報提供前後の古着の着物に対する支払意思額の分布を、縦軸を相対度数とするヒストグラムで表したものである²³。なお「② 金額によらず、古着の着物は買わない」を選択した人の支払意思額は 0 円未満、「① 2000 円より低い値段なら購入を検討する」を選択した人の支払意思額は 0 円以上 2000 円未満と解釈している。これらの図より、情報提供前後で分布の形状には大きな変化は見られないが、若干その中心が右にシフトしており、少ないながらも支払意思額が上昇している傾向が読み取られる。とりわけ 0 円未満、すなわち「② 金額によらず、古着の着物は買わない」人の相対度数が 1.6 ポイント低下しており、情報提供前は古着の着物を購入するつもりがなかった人々の一部が、情報提供後にその購入を検討するようになるという行動の変容が観察されている。

²³ 支払意思額の度数分布表は参考資料 B を参照

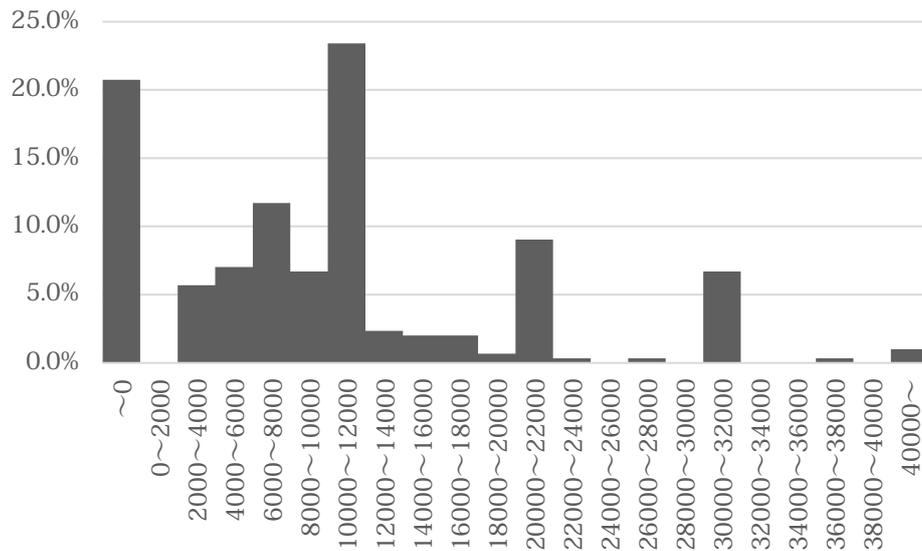


図 6.1 古着の着物に対する支払意思額の分布（環境情報提供前）

出典：筆者作成

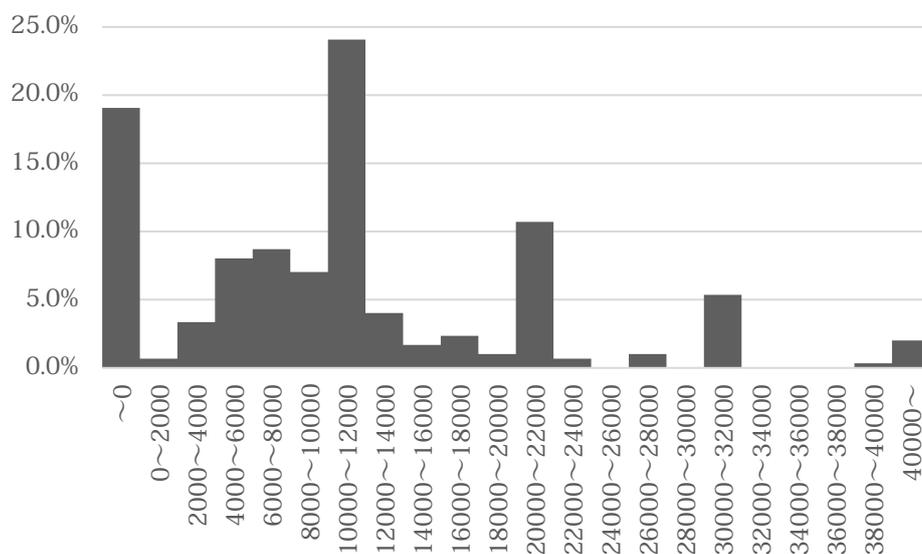


図 6.2 古着の着物に対する支払意思額の分布（環境情報提供後）

出典：筆者作成

図 6.3 は度数分布表から近似計算された支払意思額の平均値と中央値を示している。平均値の計算においては区間の中央値（階級値）を用い、0円未満の支払意思額は0円、4万円以上の支払意思額は4万円と処理した。中央値は累積相対度数が50%になるところを線

形補間により近似計算している。この図からわかるように、環境情報の提供によって支払意思額の平均値は 10254 円から 11023 円へと 769 円（7.5%）増加した。また、中央値も 9450 円から 10264 円へと 814 円（8.6%）増加している。対応のある平均値の差の検定²⁴を行ったところ、検定統計量の値は 3.955、p 値は 0.000 となり、両支払意思額の平均の間には 1%水準で有意な差が認められた。これらの結果から、環境情報によって人々の古着の着物に対する支払意思額は増加するものと判断され、ファッション産業の環境負荷と着物のエコフレンドリーな特性を広く伝えることで、古着の着物市場は拡大し、着物の普段使いが促されることが結論付けられる。

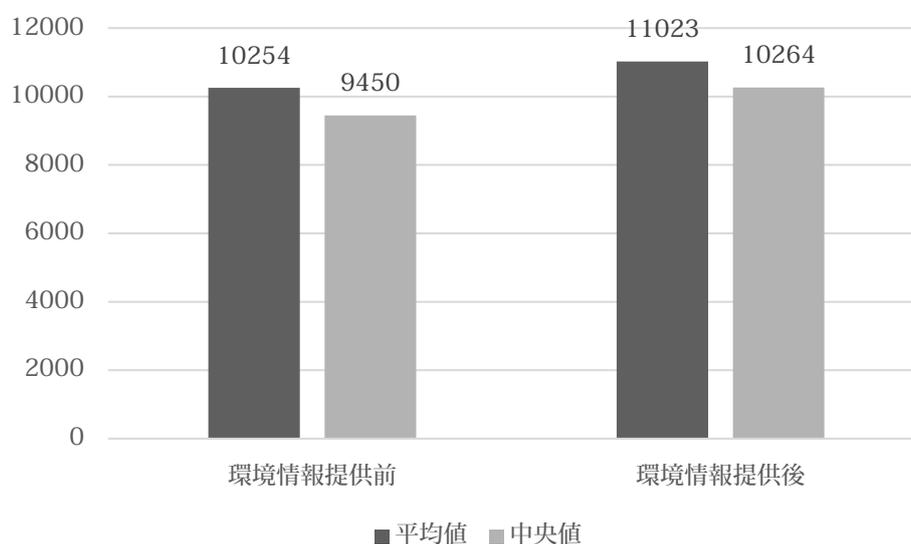


図 6.3 古着の着物に対する支払意思額の平均値と中央値

出典：筆者作成

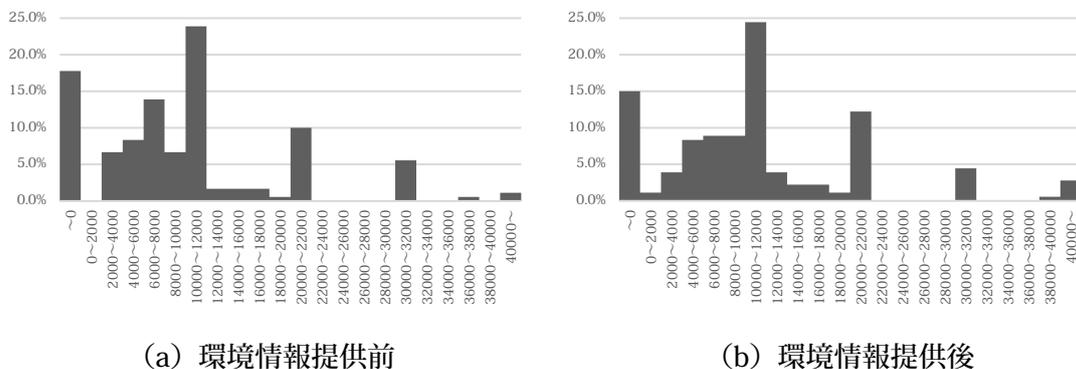
(2) 調査地間の比較

図 6.4 は近江八幡調査における古着の着物に対する支払意思額の分布を、図 6.5 は京都調査におけるそれらの分布をヒストグラムで示したものである²⁵。これらの調査地間で環境情報による支払意思額の分布の変化を比較すると、近江八幡においては全体の傾向と同様に若干ではあるが分布の中心が右にシフトしている一方で、京都においてはほとんどその形状に変化が見られない。0 円未満、すなわち「⑳ 金額によらず、古着の着物は買わな

²⁴ 例えば JMP Statistical Discovery (2025) を参照

²⁵ 支払意思額の度数分布表は参考資料 B を参照

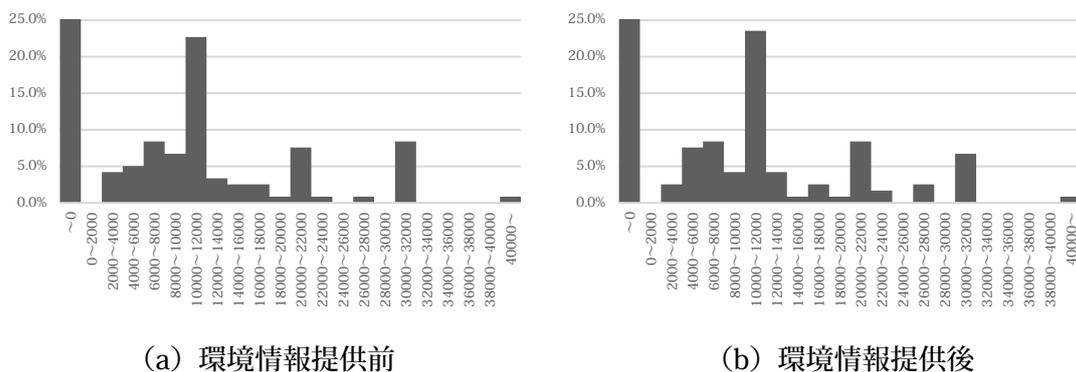
い」人の相対度数に注目すると、近江八幡調査では 2.8 ポイントの減少が観察されるのに対して、京都調査では情報提供前後でこの値が変わらないことがその状況を顕著に物語る。



(a) 環境情報提供前 (b) 環境情報提供後

図 6.4 古着の着物に対する支払意思額の分布（近江八幡調査）

出典：筆者作成



(a) 環境情報提供前 (b) 環境情報提供後

図 6.5 古着の着物に対する支払意思額の分布（京都調査）

出典：筆者作成

以上の調査地間の傾向の違いは、平均値と中央値の変化からも確認できる。図 6.6 は近江八幡調査における支払意思額の平均値と中央値を、図 6.7 は京都調査におけるそれらの値を示している。近江八幡調査では、環境情報の提供によって支払意思額の平均値は 10144 円から 11356 円へと 1212 円(11.9%)増加し、中央値も 9000 円から 10318 円へと 1318 円 (14.6%) 増加している。一方で京都調査では、情報提供前後の支払意思額の平均値はそれぞれ 10420 円、10521 円、中央値は 10125 円、10179 円となり、情報提供に伴う増加率は 1%にも達しない。対応のある平均値の差の検定においても、近江八幡調査における検定統計量の値は 5.153、p 値は 0.000 であったのに対し、京都調査では検定統計量の値は

0.308、p 値は 0.379 となり、京都のサンプルでは情報提供前後の支払意思額の平均の間には 10%水準でも有意な差が認められなかった。以上の結果より、近江八幡の調査においては ESD は古着の着物市場に直接的な効果を与えるといえるが、京都調査においてはその効果はないことが結論付けられる。

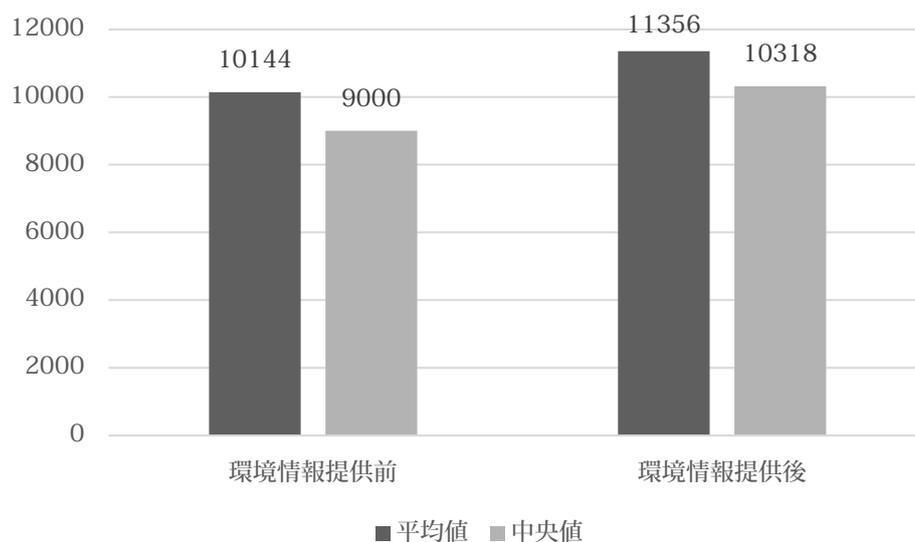


図 6.6 古着の着物に対する支払意思額の平均値と中央値（近江八幡調査）

出典：筆者作成

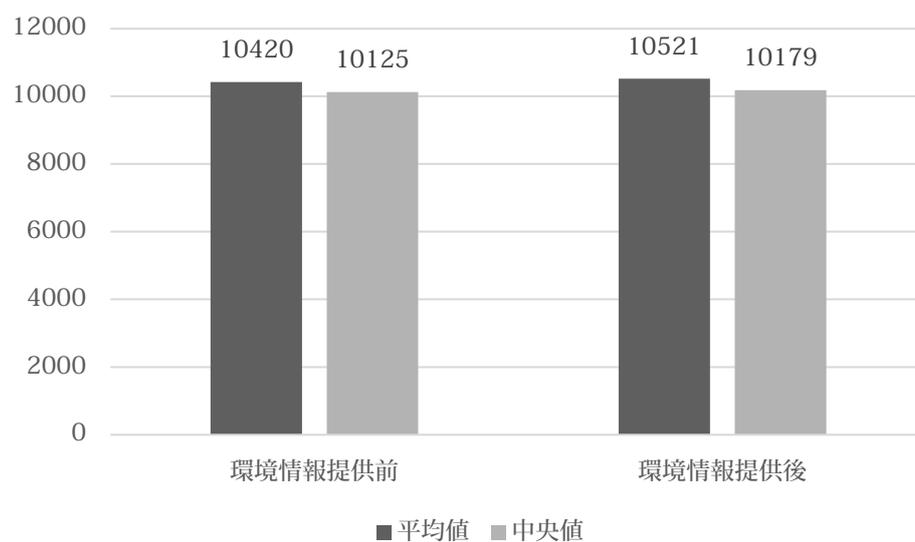


図 6.7 古着の着物に対する支払意思額の平均値と中央値（京都調査）

出典：筆者作成

6.3 環境情報が着物の普段使いの頻度に与える影響

(1) 全体の傾向

図 6.8、図 6.9 はそれぞれ、環境情報提供前後の着物の年間着用回数（式典での着用を除き、着物レンタルを含む）の分布をヒストグラムで示したものである²⁶。これらの図より、支払意思額のケースとは異なって、着物の普段使いの頻度については、情報提供前後で分布の形状に大きな変化が生じていることがわかる。特に 0～1 回の相対度数が 26.8 ポイントも低下しており、情報提供前は着物で外出することがほとんどなかった人の 4 分の 1 以上が、環境情報によって着物での外出を考えるようになるという行動の変容が観察された。

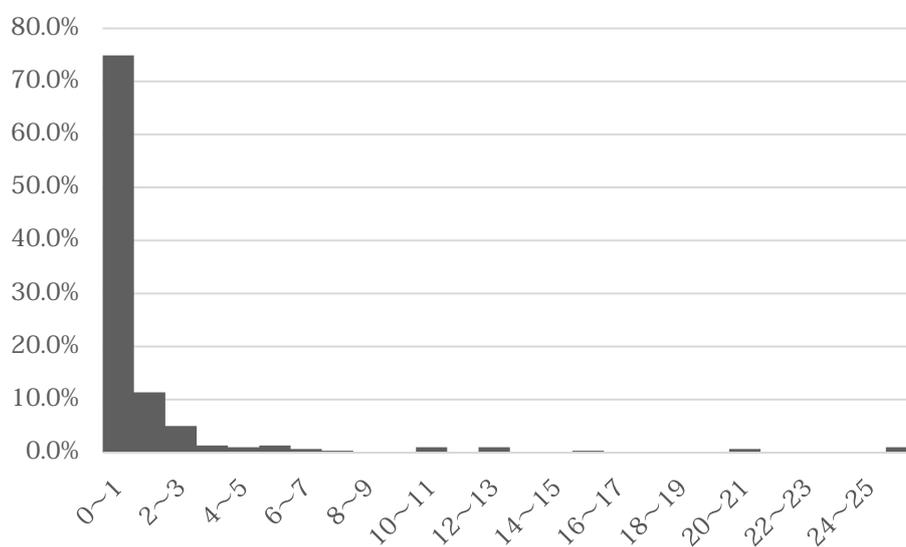


図 6.8 着物の普段使いの頻度の分布（環境情報提供前）

出典：筆者作成

²⁶ 年間着用回数の度数分布表は参考資料 C を参照

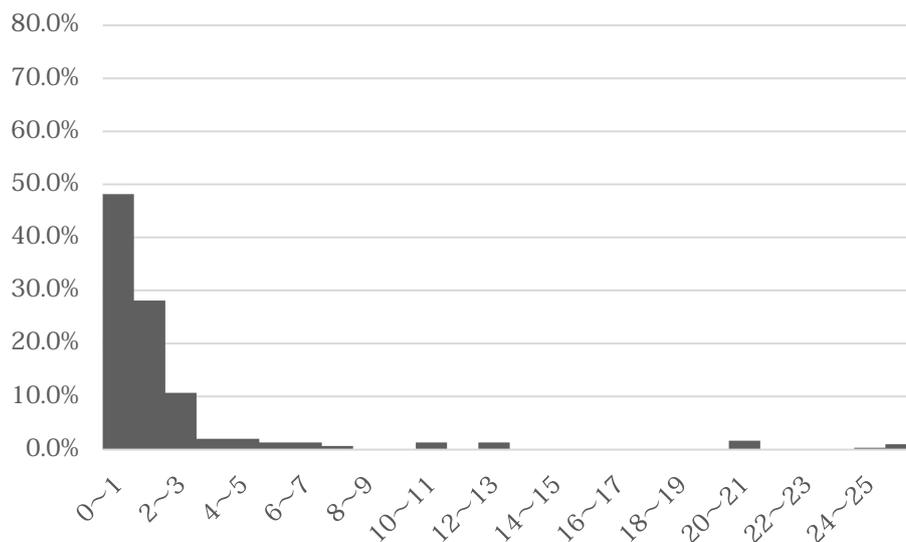


図 6.9 着物の普段使いの頻度の分布（環境情報提供後）

出典：筆者作成

図 6.10 は着物の年間着用回数の平均値と中央値を示している。この図からわかるように、着物の普段使いの頻度の平均値は、環境情報によって 1.31 回から 2.05 回と 0.74 回(56.2%) 増加しており、中央値も 0 回から 1 回に増加している。対応のある平均値の差の検定を行ったところ、検定統計量の値は 3.640、p 値は 0.000 となり、両回数の平均の間には 1%水準で有意な差が認められた。これらの結果から、環境情報の提供によって着物の普段使いの頻度は増加することが結論付けられ、ファッション産業の環境負荷と着物のエコフレンドリーな特性を広く伝えることで、着物の普段使いが促進され、将来的な着物市場の拡大が期待される。

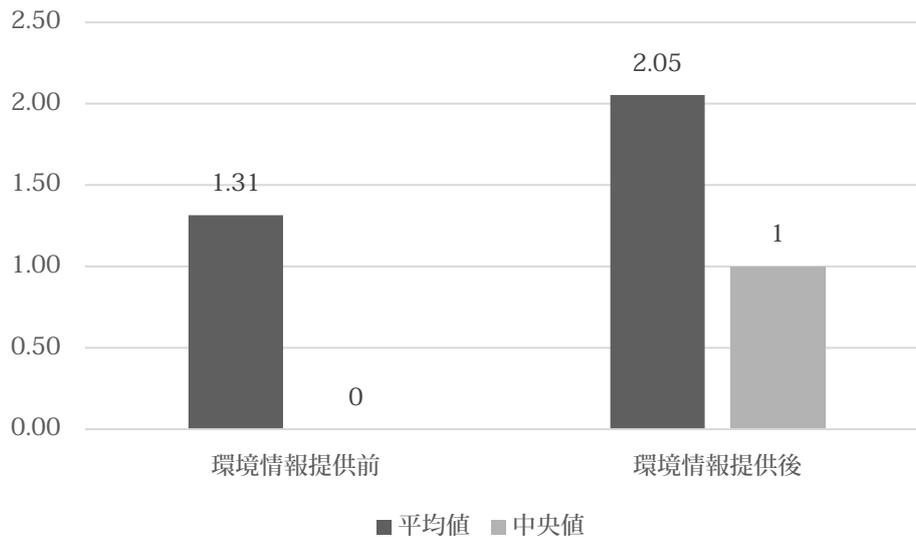


図 6.10 着物の普段使いの頻度の平均値と中央値

出典：筆者作成

(2) 調査地間の比較

図 6.11 は近江八幡調査における着物の着用頻度の分布を、図 6.12 は京都調査におけるそれらの分布をヒストグラムで示したものである²⁷。これらの調査地間で環境情報の提供による着物の着用頻度の分布の変化を比較すると、双方について全体の傾向と同様に分布の中心が右にシフトしていることがわかる。0～1回の相対度数に注目すると、環境情報によってその値は近江八幡調査では28.3ポイント、京都調査では24.4ポイント低下しており、全体の傾向と同水準の行動変容が観察される。

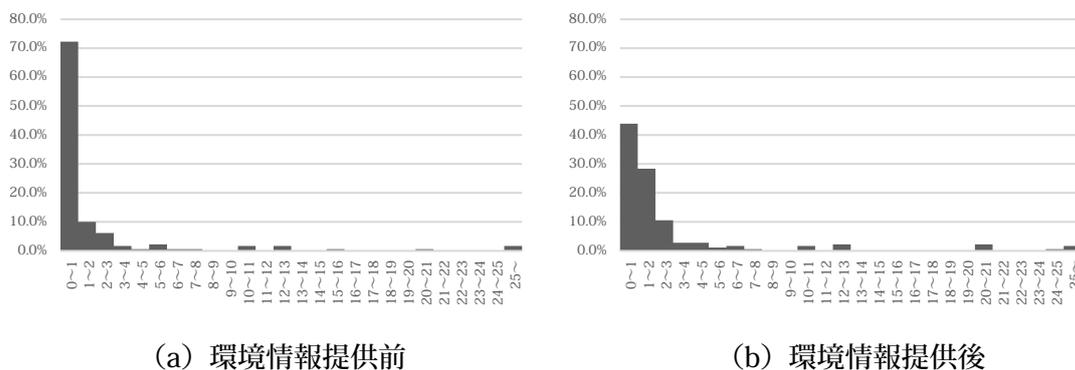
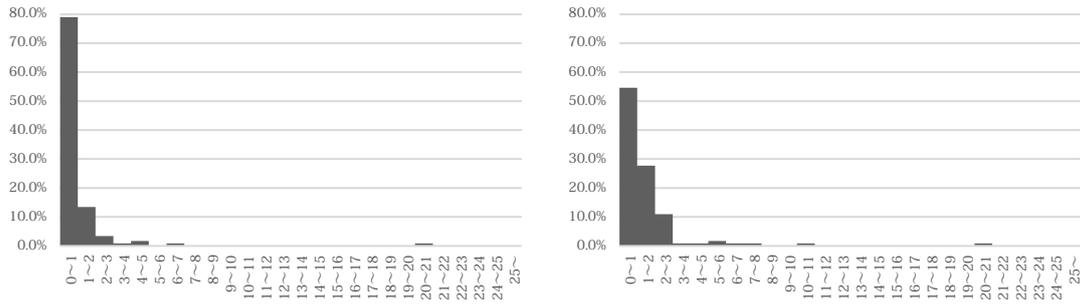


図 6.11 着物の普段使いの頻度の分布（近江八幡調査）

出典：筆者作成

²⁷ 年間着用回数の度数分布表は参考資料 C を参照



(a) 環境情報提供前

(b) 環境情報提供後

図 6.12 着物の普段使いの頻度の分布（京都調査）

出典：筆者作成

平均値と中央値をみても、両調査地について、環境情報による着物の着用頻度の増加が確認できる。図 6.13 は近江八幡調査における着物の普段使いの頻度の平均値と中央値を、図 6.14 は京都調査におけるそれらの値を示している。近江八幡調査では、環境情報の提供によって着物の年間着用回数の平均値は 1.81 回から 2.70 回に 0.89 回（48.8%）増加し、中央値も 0 回から 1 回に増加している。京都調査においても、ESD によって着物の年間着用回数の平均値は 0.56 回から 1.08 回に 0.52 回（92.0%）増加し、中央値も 0 回から 0.5 回へと増加している。対応のある平均値の差の検定においても、近江八幡調査における検定統計量の値は 2.690、p 値は 0.004、京都調査では検定統計量の値は 4.738、p 値は 0.000 となり、ESD 前後の支払意思額の平均の間には 1%水準で有意な差が認められた。以上の結果より、両調査地について環境情報の提供は着物の普段使いの頻度を高める効果を持つことが結論付けられる。

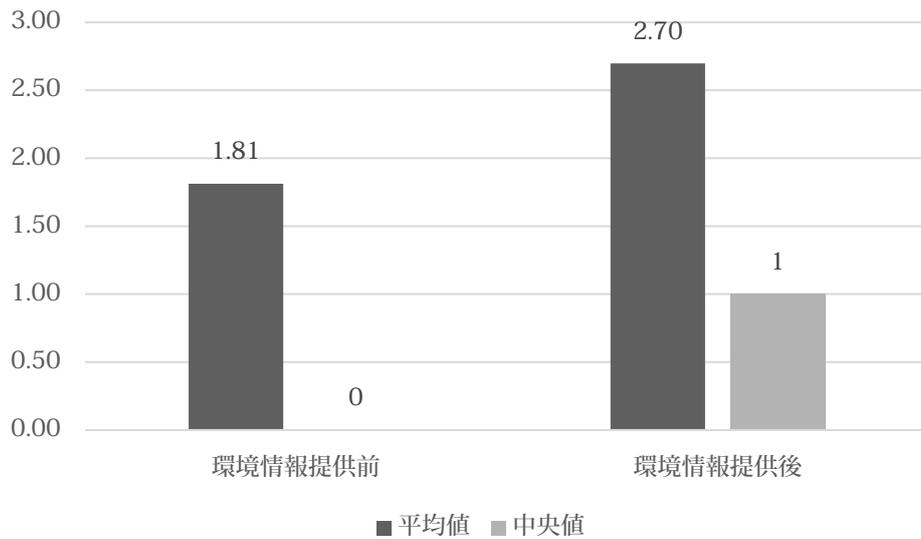


図 6.13 着物の普段使いの頻度の平均値と中央値（近江八幡調査）

出典：筆者作成

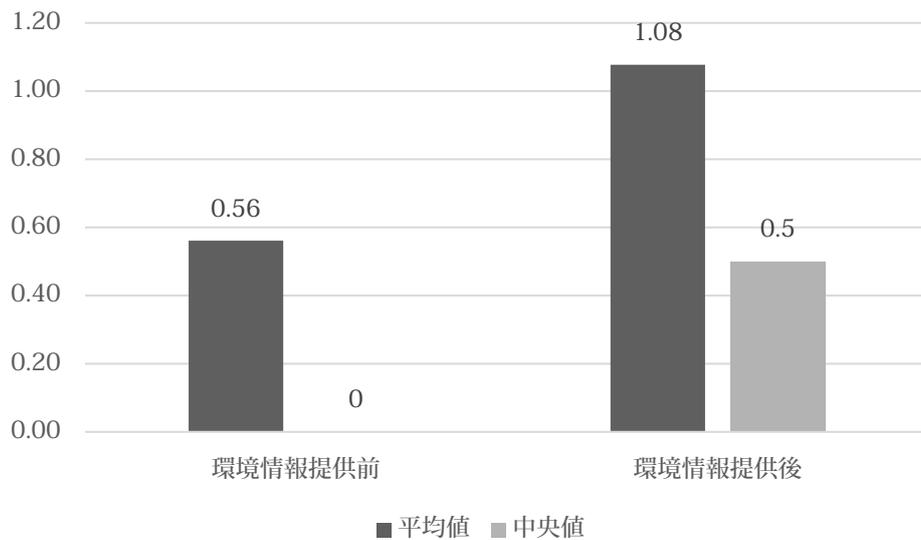


図 6.14 着物の普段使いの頻度の平均値と中央値（京都調査）

出典：筆者作成

6.4 ESD 効果の考察

表 6.1 は以上の ESD 効果の分析結果を要約したものである。この結果より、全体としては環境情報の提供が古着の着物に対する支払意思額と着物の普段使いの頻度を高める効果を持つことが結論付けられるが、京都での調査では、環境情報は着物の普段使いの頻度にプ

ラスの影響を及ぼす一方で、古着の着物に対する支払意思額には作用しないという結果が得られた。この結果は、京都では現在着物レンタルの市場が成熟していることが影響しているものと推察される。京都のような着物レンタルショップが多く建ち並ぶ場所では、若者や観光客は、日常的に着用するわけではない着物を「購入する」よりも、手軽に「レンタルする」ことを選択する可能性が高い。たとえ比較的安価なアンティーク／リサイクル着物であっても、そこでは環境情報は着物の購買意欲に作用せず、直接的には着物市場の拡大に貢献しないものと予想される。

表 6.1 ESD が着物需要に与える効果の分析結果の要約

	近江八幡		京都		全体	
	環境情報 提供前	環境情報 提供後	環境情報 提供前	環境情報 提供後	環境情報 提供前	環境情報 提供後
支払意思額 (円)						
平均値	10144	11356	10420	10521	10254	11023
中央値	9000	10318	10125	10179	9450	10264
着用頻度 (年回数)						
平均値	1.81	2.70	0.56	1.08	1.31	2.05
中央値	0	1	0	0.5	0	1

出典：筆者作成

このことは、環境情報の提供が着物の普段使いの頻度に与える効果が、京都での調査においてより大きく観察されたことから確認される。上述の通り、近江八幡調査では、環境情報によって着物の年間着用回数の平均値が 48.8%増加したのに対して、京都においてはその増加率は 92.0%にも上っている。京都調査の回答者のうち、カジュアルな着物を所有している人の割合が 12.4%であったことを考えれば、この増加は着物レンタルの頻度の増加を意味することになる。つまり着物レンタルの市場が成熟した地域においては、ESD はそのレンタルを促すことにのみ作用し、少なくとも短期的には古着着物の市場には影響を与えないことが結論付けられる。

6.5 古着の着物に対する支払意思額の規定要因

最後に、第 3 章で述べた区間回帰モデルを用いて、支払意思額を被説明変数とする WTP 関数を推定し、その金額を規定する要因を探る。モデルに含めた説明変数は表 6.2 の通りである。以下では、各 WTP 関数についてその係数が有意となった変数を中心に考察を与える。

なお、ここではサンプルを ESD 前後の支払意思額と着用頻度の質問全てに回答した回答者に限定せず、推定に利用可能なデータを全て使用している。

表 6.2 説明変数の定義

変数	定義
<i>OWN_CK</i>	カジュアルな着物を所有している=1、所有していない=0
<i>RENTAL_K</i>	着物レンタルの経験あり=1、なし=0
<i>FREQ_K</i>	普段着としての着物の着用頻度（年間着用回数）
<i>KNOW_AK</i>	古着の着物販売を知っている=1、知らない=0
<i>BUY_AK</i>	古着の着物の購入経験あり=1、なし=0
<i>FEMALE</i>	女性=1、男性=0
<i>AGE</i>	年代
<i>STUDENT</i>	学生=1、社会人=0
<i>SHIGA</i>	滋賀県居住者=1、その他=0
<i>KYOTO</i>	京都府居住者=1、その他=0
<i>CLOTH</i>	衣服の月購入費

出典：筆者作成

表 6.3 は、全体のサンプルについて、環境情報提供前後それぞれの WTP 関数を推定した結果である。情報提供前後に共通して、*BUY_AK*（古着の着物の購入経験）、*AGE*（年代）、*CLOTH*（衣服の月購入費）の 3 つの変数の係数が 5%水準で有意となった。第一に、*BUY_AK*（古着の着物の購入経験）の係数は正の値を示している。これはアンティーク／リサイクル着物を購入した経験がある人ほど、そうした古着の着物に対する支払意思額が大きいことを意味する。この傾向は、古着の着物を購入し、着用した経験がある人は、その良さを認識してその着物に満足していることを示唆すると同時に、その経験がない人は古着の着物に抵抗感を抱いていることを含意する。上述のように近年アンティーク／リサイクル着物を販売する店舗は増加する傾向にあり、人々がそのような着物に触れる機会もまた増えている。本結果から、将来的に古着の着物を購入し、着用する人が増えれば、その市場はさらに拡大することが期待される。第二に、*AGE*（年代）の係数は負の値を示しており、若い世代ほど古着の着物をより高く評価する傾向が得られた。この傾向もまた、将来の古着の着物市場の成長を期待させる。第 2 章で述べたように、SNS の普及と共に、着物の着こなしを紹介するアカウントが増えており、新たな視点で着物を自由に楽しむ着物インフルエンサーも現れている。こうした中で着物の普段着としての魅力が見直され、手が届きやすい比較的安価な古着の着物は、若い世代を中心に受け入れられやすくなっているものと思われる。最

後に *CLOTH* (衣服の月購入費) は正の値を示している。この結果は衣服に対する支出が多い人ほど古着の着物に対する支払意思額が大きくなる自然な傾向を表すものである。アンケートによる支払意思額の計測においてはしばしばその信頼性が問題視されるが、こうした経済学的にみて合理的な傾向が得られたことは、人々がその金額を十分に考えて回答していることを示すものだと言えよう。

表 6.3 WTP 関数の推定結果 (全体)

変数	環境情報提供前			環境情報提供後		
	係数推定値	t 統計量	p 値	係数推定値	t 統計量	p 値
<i>OWN_CK</i> (カジュアルな着物の所有)	-1312.520	-0.86	0.388	-1170.023	-0.78	0.437
<i>RENTAL_K</i> (着物レンタルの経験)	1361.220	0.85	0.398	1127.077	0.70	0.481
<i>FREQ_K</i> (着物の普段使いの頻度)	128.146	0.88	0.379	99.93223	0.69	0.491
<i>KNOW_AK</i> (古着の着物販売の認知)	1799.848	1.22	0.223	2027.966	1.40	0.161
<i>BUY_AK</i> (古着の着物の購入経験)	5445.793	2.19	0.028	5928.412	2.39	0.017
<i>FEMALE</i> (女性)	-1096.030	-0.68	0.495	-1572.191	-1.00	0.317
<i>AGE</i> (年代)	-1373.633	-2.66	0.008	-1515.404	-2.94	0.003
<i>STUDENT</i> (学生)	-575.608	-0.28	0.776	-888.7209	-0.44	0.658
<i>SHIGA</i> (滋賀県居住者)	-341.043	-0.21	0.837	-843.5798	-0.51	0.609
<i>KYOTO</i> (京都府居住者)	2932.652	1.41	0.160	2915.941	1.41	0.160
<i>CLOTH</i> (衣服の月購入費)	2654.298	2.54	0.011	2650.199	2.56	0.010
定数項	11228.030	3.90	0.000	13068.59	4.57	0.000
誤差の標準偏差の対数	9.239	181.02	0.000	9.236	184.21	0.000
対数尤度	-712.93			-732.14		
AIC	1451.86			1490.29		
標本サイズ	275			278		

出典：筆者作成

表 6.4、表 6.5 は、近江八幡調査と京都調査それぞれについての WTP 関数の推定結果である。全体のサンプルと同じく、以下では各 WTP 関数についてその係数が有意となった変数を中心に考察する。

表 6.4 WTP 関数の推定結果（近江八幡調査）

変数	環境情報提供前			環境情報提供後		
	係数推定値	t 統計量	p 値	係数推定値	t 統計量	p 値
<i>OWN_CK</i> (カジュアルな着物の所有)	91.651	0.05	0.963	-620.730	-0.31	0.757
<i>RENTAL_K</i> (着物レンタルの経験)	-727.535	-0.35	0.725	-980.430	-0.47	0.641
<i>FREQ_K</i> (着物の普段使いの頻度)	101.380	0.73	0.467	55.555	0.39	0.697
<i>KNOW_AK</i> (古着の着物販売の認知)	844.433	0.42	0.672	2390.981	1.19	0.234
<i>BUY_AK</i> (古着の着物の購入経験)	4232.987	1.64	0.102	4858.278	1.84	0.066
<i>FEMALE</i> (女性)	41.471	0.02	0.984	-48.866	-0.02	0.981
<i>AGE</i> (年代)	-1159.248	-1.73	0.083	-1451.641	-2.11	0.034
<i>STUDENT</i> (学生)	-2425.163	-0.85	0.397	-1053.229	-0.36	0.717
<i>SHIGA</i> (滋賀県居住者)	289.822	0.16	0.873	-1366.529	-0.74	0.462
<i>KYOTO</i> (京都府居住者)	858.249	0.28	0.781	2051.888	0.66	0.512
<i>CLOTH</i> (衣服の月購入費)	1669.512	1.34	0.180	2074.429	1.65	0.098
定数項	11254.970	3.14	0.002	13455.350	3.71	0.000
誤差の標準偏差の対数	9.167	141.14	0.000	9.188	144.63	0.000
対数尤度	-422.20			-438.49		
AIC	870.40			902.98		
標本サイズ	162			164		

出典：筆者作成

表 6.5 WTP 関数の推定結果 (京都調査)

変数	環境情報提供前			環境情報提供後		
	係数推定値	t 統計量	p 値	係数推定値	t 統計量	p 値
<i>OWN_CK</i> (カジュアルな着物の所有)	-4168.087	-1.73	0.083	-4093.431	-1.73	0.084
<i>RENTAL_K</i> (着物レンタルの経験)	3545.455	1.38	0.167	2842.027	1.13	0.259
<i>FREQ_K</i> (着物の普段使いの頻度)	1359.965	1.08	0.282	1713.097	1.38	0.168
<i>KNOW_AK</i> (古着の着物販売の認知)	2445.226	1.10	0.273	1543.431	0.72	0.473
<i>BUY_AK</i> (古着の着物の購入経験)	7187.215	1.09	0.277	6775.802	1.04	0.297
<i>FEMALE</i> (女性)	-3413.665	-1.37	0.172	-3635.972	-1.51	0.130
<i>AGE</i> (年代)	-1675.623	-2.04	0.042	-1857.324	-2.28	0.023
<i>STUDENT</i> (学生)	1374.216	0.46	0.642	-34.816	-0.01	0.990
<i>SHIGA</i> (滋賀県居住者)	-5328.502	-1.11	0.267	-3198.223	-0.68	0.495
<i>KYOTO</i> (京都府居住者)	6161.627	2.12	0.034	5011.208	1.74	0.081
<i>CLOTH</i> (衣服の月購入費)	3898.310	2.21	0.027	3247.541	1.87	0.062
定数項	11267.170	2.38	0.017	13771.190	2.93	0.003
誤差の標準偏差の対数	9.270	112.55	0.000	9.252	113.90	0.000
対数尤度	-282.63			-286.81		
AIC	591.27			599.62		
標本サイズ	113			114		

出典：筆者作成

近江八幡調査においては、全体と同様の傾向が得られている。環境情報提供後については、少なくとも 10%水準でその係数が有意となった変数は、全体と同じく *BUY_AK* (古着の着物の購入経験)、*AGE* (年代)、*CLOTH* (衣服の月購入費) であり、その符号も一致している。環境情報提供前については *AGE* (年代) のみが有意となった。ただし *BUY_AK* (古着の着物の購入経験)、*CLOTH* (衣服の月購入費用) についても、10%水準では有意とはいえないが、双方ともその係数の p 値は 0.1 台であることから、全体の傾向と大差はないものと判断できる。

一方で京都調査においては異なる傾向が得られている。情報提供前後に共通して、*AGE* (年代)、と *CLOTH* (衣服の月購入費) は引き続き有意となり、係数の符号も全体と整合している。しかしながら *BUY_AK* (古着の着物の購入経験) は有意とはならず、代わりに *OWN_CK* (カジュアルな着物の所有) と *KYOTO* (京都府居住者) が少なくとも 10%水準で有意となった。*OWN_CK* (カジュアルな着物の所有) についてはその係数は負となっており、これはカジュアルな着物を持っている人の方が、持っていない人よりも古着の着物をより低く評

価する傾向を示している。この結果もまた、京都では着物レンタルショップが多く存在することによるものと考えられる。着物レンタル市場が成熟している京都では、着物レンタルショップで様々なカジュアルな着物を着用することができる。すでにカジュアルな着物を所有している人は、所有していない人よりも新たに着物を買おうとする誘因が小さく、それゆえ支払意思額も相対的に小さくなったものと推測される。一方 *KYOTO*（京都府居住者）の係数は正の値を示しており、京都府内に住むの方が他府県に住む人よりも古着の着物に対する支払意思額が大きい傾向が得られた。この結果は、京都は日本の和装産業、着物文化の中心地であり²⁸、京都府在住者は他府県居住者よりも着物に接することが多いことが影響しているものと推察される。

7. おわりに

本研究では、ESD（持続可能な開発のための教育）の観点から環境情報の提供が着物の普段使いの促進にどれほど貢献するかを明らかにすることに取り組んだ。具体的には、着物の需要を測る指標としてアンティーク／リサイクル着物に対する支払意思額とレンタルを含む着物の年間着用回数に注目し、それらの指標が現代のファッション産業が引き起こす環境負荷と着物のサステナブルファッションとしての特性を広く伝えることでどれほど増加するかをアンケート調査により分析した。さらに支払意思額を被説明変数とする WTP 関数の推定にも取り組み、古着の着物に対する需要を規定する要因を探ることに取り組んだ。データは滋賀県近江八幡市と京都府京都市で行ったアンケート調査により収集し、それらの調査地間での結果の違いについても考察を与えた。

分析の結果は、ESD が着物の普段使いを促す上で一定の役割を果たすことを支持するものであった。全体としては、アンティーク／リサイクル着物に対する支払意思額は、環境情報提供前はその平均値が 10254 円、中央値が 9450 円であったものが、環境情報提供後はそれぞれ 11023 円、10264 円に上昇した。普段着としての着物の年間着用頻度についても、環境情報提供前は平均値が 1.31 回、中央値が 0 回であったものが、環境情報提供後は平均値が 2.05 回、中央値が 1 回に上昇する結果となった。平均値については対応がある場合の差の検定を行い、支払意思額と着用頻度それぞれについて、情報提供前後の平均値の間に統計的に有意な差が確認された。これらの結果から、ファッション産業の環境負荷と着物

²⁸ 京都府の既製和服・帯の出荷額は全国一位であり、その額は 80 億円（全体の 56%）に上る（京都府，2024b）。

のエコフレンドリーな特性を広く伝えることで、古着の着物市場は拡大し、人々の着物の普段使いも促されるものと結論付けられる。

ただし、上記の傾向は、着物レンタル市場の成長度合いによって変わってくる。近江八幡市と京都市での両調査結果を比較すると、近江八幡では環境情報によってアンティーク／リサイクル着物に対する支払意思額と着物の年間着用頻度は上昇したが、京都では着用頻度は上昇したものの、支払意思額はほとんど変わらず、わずか1%程度の上昇にとどまった。統計的検定の結果からも、京都調査における情報提供前後の支払意思額の平均の間には統計的に有意な差が見られなかった。京都のような着物レンタルショップが多く存在する場所では、人々は日常的には着用しない着物を「購入する」よりも、手軽に「レンタルする」ことを選ぶ可能性が高い。それゆえ着物レンタル市場が成熟期にある状況下では、ESDは着物の購買意欲に作用せず、着物市場の拡大にも貢献しないことが考察される。

支払意思額の規定要因を探る分析からは、古着の着物市場の今後の拡大を期待させる結果が得られた。全体としてはアンティーク／リサイクル着物を購入した経験がある人ほど、そして年代が若い人ほどその支払意思額が大きくなる傾向が示され、この結果から今後若い世代が古着の着物を購入し、着用する人が増えれば、その市場はさらに拡大するものと予想される。最近ではアンティーク／リサイクル着物を販売する店舗が多くみられるようになり、SNSを通じた着物の自由な着こなしの普及と併せて、若者が自身でも手に届く着物をおしゃれ着として受け入れつつある状況がみられる（ゆめや、2025）。この状況に近年の環境意識の高まりが重なることで、着物の普段使いがより一層促進されるものと期待される。

着物の普段使いが広がるためには、古着を含むカジュアルな着物の市場の成長が欠かせない。確かに京都のような歴史観光地では、若者を中心に着物をレンタルして外出する人が年々増加する傾向にあるが、それは一種のイベントとして利用されているのが実態であり、本来の「普段使い」という意味合いとは少し異なる。自分の着物を所有し、その日の気分で着物を着用して出かけるようになって初めて着物を「普段使い」していると言うことができよう。本研究では、環境情報が着物の着用頻度を大きく高めることが示されたが、そう回答した人の多くはレンタルでの着用を想定しているものと予想され、古着の着物の購入につながる支払意思額への影響は限定的であった。アンティーク／リサイクル着物を販売する店舗が増える中、若い世代にその楽しさと社会的な意義をどのように伝えるかが今後の重要な課題である。

補論 クラウドファンディングの結果と活動の収支

A.1 クラウドファンディングの概要

当活動は、国内最大級の規模を誇る CAMPFIRE のサイトを通じて、クラウドファンディングにより活動資金を調達した（図 A.1）²⁹。クラウドファンディングのタイプは、支援金の規模に応じて様々なリターン品を返送する「購入型」であり、目標金額に達成しない場合でも、支援いただいた分のお金を受け取ることができる「All in 方式」を採用した。期間は 2024 年 11 月 2 日（土）から 2024 年 12 月 15 日（日）までの 44 日間で、目標金額は 25 万に設定した。



図 A.1 クラウドファンディングページのカバー画像

出典：筆者作成

リターン品は表 A.1 のように整理される。今回製作した着物の新しい楽しみ方と着物を通じた学びをまとめたパンフレット「キモノオシ～キモノで遊び、キモノで学ぶ～」に加えて、着物の端切れで作ったマグネット、オリジナルラベルを付けた近江八幡の葦のお菓子、

²⁹ 当プロジェクトの専用ページ（<https://camp-fire.jp/projects/802699/view>）を参照。

近江八幡の葦で作ったヨシストロー、過年度のプロジェクトで製作したパンフレットなどをリターン品に含めた。

表 A.1 クラウドファンディングのリターン一覧

コース名	金額	内容
基本セットコース	2000 円	手書きのお礼の手紙 分析結果の速報 着物の普段使い促進パンフレット「キモノオシ〜キモノで遊び、キモノで学ぶ〜」
着物プロジェクトコース	5000 円	基本セットコースのリターン 着物の端切れで作ったマグネット オリジナルラベル付き葦のお菓子セット
ゼミ成果物コース	5000 円	基本セットコースのリターン 廃校カフェ紹介パンフレット「京都・奈良・三重の廃校・木造校舎カフェ」 滋賀の米粉スイーツ・古民家カフェ紹介パンフレット「米粉スイーツ×古民家カフェ」 滋賀の古書店・ブックカフェ「書をたずさえてカフェに行こう」 近江の彩り べんがら色彩スイーツ&ミール レシピ集 愛彩菜でカフェメニュー クッキングレシピ集
ヨシストローコース	5000 円	基本セットコースのリターン ヨシストロー2 本〔未使用ヨシストローとリユースヨシストロー〕 ヨシストロー紹介パンフレット「ヨシストローで#SDGs」 ヨシストロー紹介パンフレット「リユースヨシストローでSDGs・MLGs」
報告書コース	12000 円	基本セットコースのリターン 研究成果報告書
全セットコース	20000 円	上記すべてのリターン

出典：筆者作成

クラウドファンディングのページでは、活動の進捗を随時報告し、2025 年 2 月 13 日時点で計 17 回の報告を行っている。また当ゼミの Facebook ページ (@terawakiche)、Instagram アカунト (@terawaki.lab) に加え、当活動専用の Instagram アカунト (@terawaki_zemi_20) でも活動内容や進捗を写真や動画で紹介した。専用 Instagram アカунトにおける投稿回数は、通常 24 回、リール 11 回、ストーリー41 回であった。さらにプレスリリースを 2 度発行した。最初に八幡キモノコレクションの告知を兼ねて立命館大学広報課から発行し (10 月 28 日)、その後八幡キモノコレクションの実施と分析結果の速報を伝えることを目的に @Press より発行した (11 月 27 日)。@Press のリリースは日本

経済新聞、ニューズウィーク日本版、財経新聞など 16 のメディアで転載いただくと共に、サードニュースでその内容を記事にさせていただいた。

A.2 クラウドファンディングの結果

クラウドファンディングの結果、延べ 37 名の方から合計 25 万円のご支援をいただき、達成率は 100%となった。購入されたコースの分布は図 A.2 の通りである。最も購入されたのは 5000 円の着物プロジェクトコースであった。男女別に見た支援者数は、男性が 11 人 (29.7%)、女性が 26 人 (70.3%) である。支援者の年代分布は図 A.3 のように表され、この図より 40 代、50 代からの支援が多かったことがわかる。

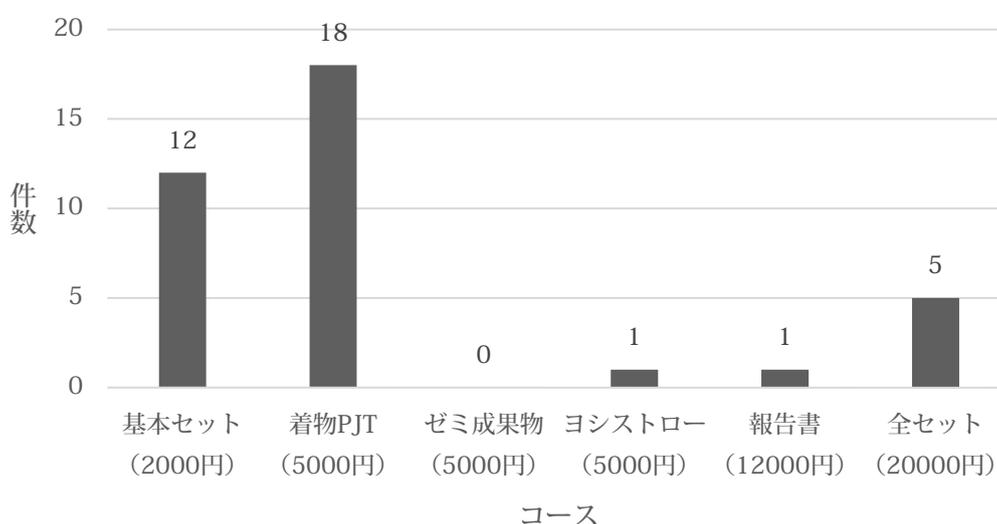


図 A.2 購入されたコースの分布

出典：CAMPFIRE より提供されたデータから筆者作成

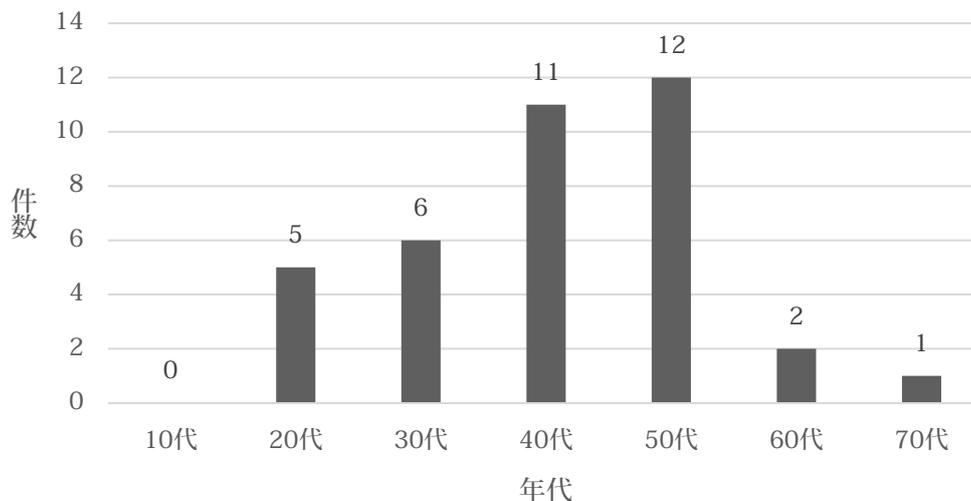


図 A.3 支援者の年代

出典：CAMPFIRE より提供されたデータから筆者作成

図 A.4 は、支援金が入金された日の推移を示している。最も入金が多かったのは、クラウドファンディングの開始直後であったが、八幡キモノコレクションの開催日（11月16日）や円山公園でアンケート調査を実施した日（12月7日）にも多くの支援が入っている。このことから、イベントや調査を通じて人々に直接活動をアピールし、その趣旨や意義を理解してもらうことの重要性が提案される。最終的に締め切り日の3日前に100%を達成したが、その後の伸びがみられなかったことが今後の課題である。支払方法で最も多かったのはクレジットカードであり、PayPay や楽天ペイといった QR コード決済、コンビニ払いも見られた。

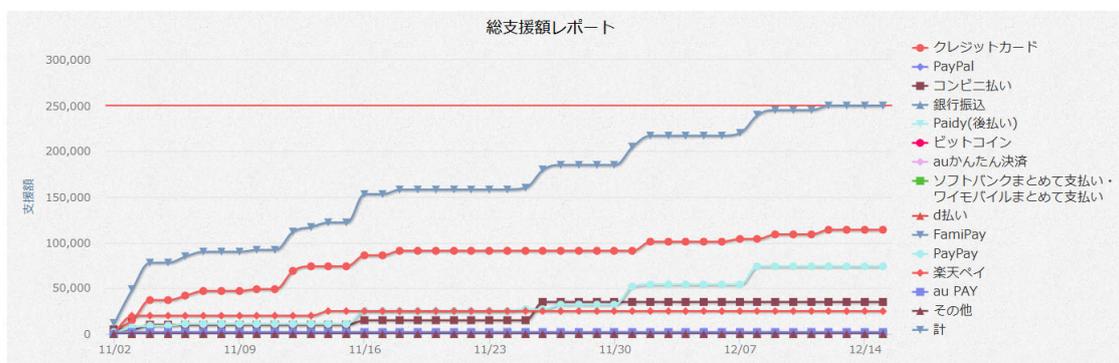


図 A.4 支援金の推移

出典：CAMPFIRE より提供

上記の通り、募集期間中に当団体は専用ページ内で計 17 回、進捗状況をレポートした。図 A.5 より、ページの閲覧はクラウドファンディング開始直後に加え、イベント開催日やアンケート調査を行った日の前後に多いことが読み取られる。この結果からイベントの開催やアンケート調査実施のタイミングで活動をアピールしたり、進捗を報告したりすることが効果的だと思われる。



図 A.5 ページビューの推移

出典： CAMPFIRE より提供

図 A.6 は、参照元別に見たページへのアクセス数の推移である。直接アクセスとサイト内訪問が大半を占めているが、Instagram からの流入も一定数みられる。このことから、イベントやアンケート調査の時期だけではなく、SNS を活用した広報を継続して行うことも重要だと思われる。

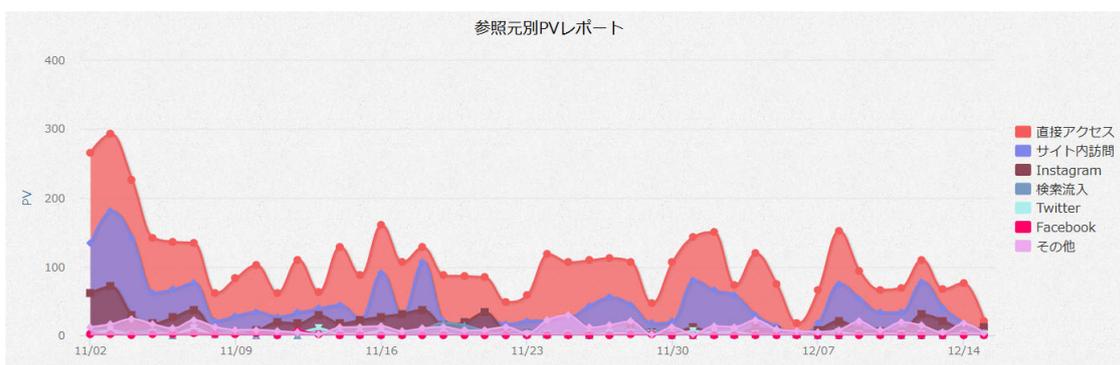


図 A.6 参照元別ページビューの推移

出典： CAMPFIRE より提供

A.3 収支報告

今回当団体が取り組んだ活動「ESD—持続可能な開発のための教育—による着物の「普段使い」普及促進プロジェクト」の収支は表 A.2 のように要約される。

表 A.2 2024 年度プロジェクト収支報告

	項目	円	備考
収入の部	クラウドファンディング支援金	¥250,000	37 人からの支援金
	大学からの補助	¥17,138	学びのコミュニティ学外活動奨励奨学金
	大学からの補助	¥110,000	経済学会ゼミ活動補助費
	大学からの補助	¥123,464	ゼミ論集作成補助費
	寄付	¥22,374	寺脇先生より
収入合計		¥522,976	
支出の部	印刷費	¥20,873	パンフレット
	印刷費	¥123,464	報告書
	消耗品費	¥171,342	イベント備品・着物レンタル代
	消耗品費	¥17,857	リターン品・リターン材料の購入
	広報費	¥33,000	@Press からのプレスリリース
	配送費	¥12,780	リターン・報告書などの送料
	施設利用費	¥10,060	旧吉田邸・旧八幡郵便局利用料
	交通費	¥133,600	調査・交渉の交通費
支出合計		¥522,976	
2024 年度収支		¥0	

引用文献

■日本語文献

荒木由希 (2018) 「きもの産業の縮小原因把握に関する先行研究整理」『人間社会環境研究』第 36 号, pp.45-61

(一社)近江八幡観光物産協会 (2019) 「八幡堀について」 (<https://www.omi8.com/omihachiman/local-history/hachimanbori/>) 参照日: 2025 年 2 月 1 日

川人彩子 (2021) 「アパレル業界で進むカジュアル化～コロナ収束後もカジュアル化の流れは続く見通し～」『三井住友信託銀行 調査月報』2021 年 4 月号 (https://www.smtb.jp/-/media/tb/personal/useful/report-economy/pdf/108_2.pdf) 参照日: 2025 年 2 月 1 日

環境省 (2024) 「サステナブルファッション」 (https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/) 参照日: 2024 年 8 月 24 日

着物堂 (2022) 「着物の着こなしがスゴい! インスタグラムで人気アカウント【20 選】」

(<https://kimonodo.jp/kimono/instagram-popular-account/>) 参照日: 2025 年 2 月 1 日

- Kimono Note (2024) 「アンティーク着物とリサイクル着物の違いとは？」 (https://jculture-info.net/antique_recycle/) 参照日：2025年2月11日
- (公財)京都市都市緑化協会 (2024) 「名勝 円山公園」 (<https://kyoto-maruyama-park.jp/>) 参照日：2025年2月1日
- 京都府総合政策環境部企画統計課 (2024a) 「京都府織布生産動態統計調査」 (<https://www.pref.kyoto.jp/tokei/monthly/orimono/orimonotop.html>) 参照日：2024年8月24日
- 京都府総合政策環境部企画統計課 (2024b) 『令和5年度 統計でみる府民の暮らし』 (<https://www.pref.kyoto.jp/tokei/yearly/kurashi/kurashi2023.pdf>) 参照日：2025年2月11日
- 栗山浩一・馬奈木俊介 (2020) 『環境経済学をつかむ：第4版』有斐閣
- Green Growers (2022) 「成人式の振袖などの着物はサステナブルだった？日本人が大切にしてきた心とは」 (<https://mygreengrowers.com/blog/furisode/>) 参照日：2024年8月24日
- 小泉和子 (2006) 『昭和のキモノー和服が普段着だったころー』河出書房新社
- JMP Statistical Discovery LLC. (2025) 「対応のある t 検定」 (https://www.jmp.com/ja_jp/statistics-knowledge-portal/t-test/paired-t-test.html) 参照日：2025年2月3日
- 滋賀ガイド (2020) 「不老長寿の果実「むべ」」 (<https://www.gaido.jp/clickalbum/75143.html>) 参照日：2025年2月1日
- (株)しんげん (2024) 「女性は浴衣をどんな時に着ている？浴衣を着ていて困ることランキング1位は半数以上の女性が困っている」 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000148.000135215.html>) 参照日：2025年2月11日
- 寺脇拓ゼミ (2023) 『リユースによるヨシストロー社会実装化促進プロジェクト 報告書』立命館大学寺脇拓ゼミ
- (株)日本総合研究所 (2021) 「環境省 令和2年度ファッションと環境に関する調査業務-「ファッションと環境」調査結果-」 (https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/goodpractice/case25.pdf) 参照日：2024年8月24日
- 文化庁 (2024) 『令和5年度 生活文化調査研究事業 (和装) 報告書』 (https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/seikatsubunka_chosa/pdf/94080401_02.pdf) 参照日：2025年2月1日
- ボストンコンサルティンググループ (2024) 「「環境問題を知り、行動を変えた」消費者は2割、昨年と変わらず～BCG調査」 (<https://www.bcg.com/ja-jp/press/22march2024-sustainable-consumer-survey-2401>) 参照日：2024年8月24日
- マイボイスコム株式会社 (2022) 「【着物】に関するアンケート調査 (第3回)」 (<https://www.myvoice.co.jp/biz/surveys/28211/index.html>) 参照日：2024年8月24日
- (株)モデル百貨 (2023) 「洋服代などファッションにかかるお金の平均について調査結果を発表！平均がもっとも高いのは40代男性という結果に」 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000110903.html>) 参照日：2025年2月11日
- 文部科学省 (2024) 「持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development)」 (<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>) 参照日：2024年8月24日
- 矢澤利枝香・川村哲也・藤田雅夫 (2023) 「浴衣レンタルサービスを構成する要素の価値分析」『繊維製品消費科学』第64巻第2号, pp.116-123

- (株)矢野経済研究所 (2024) 「呉服市場に関する調査を実施 (2024 年)」プレスリリース No.3538
(https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/3538) 参照日: 2024 年 8 月 24 日
- (株)矢野経済研究所 (2023) 「環境省令和 4 年度循環型ファッションの推進方策に関する調査業務—マテリアルフロー—」 (https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/goodpractice/case26.pdf) 参照日: 2024 年 8 月 24 日
- (株)矢野経済研究所 (2019) 『きもの産業年鑑 2019 年度版』
- ゆめや (2025) 「【着物ブーム再来】伝統 & モダンの融合 | 若者注目の最旬コーデを徹底解説!」
(https://www.yumeyakimono.jp/news/7606?srsId=AfmBOorQOim_E5XGGlxpP2hhHihsGp09ZEyvOckQRixphdv8HMifZS) 参照日: 2025 年 2 月 1 日
- 梨花和服・花乃和服 (2024) 「若者の着物離れの実態を調査 | 着物に対するイメージとは?」プレスリリース 2024 年 3 月 18 日
- 和装振興研究会 (2015) 『和装振興研究会報告書』
(https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9999276/www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou_shinkou/pdf/report01_01_00.pdf) 参照日: 2025 年 2 月 1 日

■英語文献

- Cameron, T.A. (1987) The Impact of Grouping Coarseness in Alternative Grouped-data Regression Models. *Journal of Econometrics*, 35(1), pp.37-57.
- Cameron, T.A. and Huppert, D.D. (1989) OLS versus ML Estimation of Non-market Resource Values with Payment Card Interval Data. *Journal of Environmental Economics and Management*, 17(3), pp.230-246.

参考資料 A：調査地別にみた回答者の居住地（市町村）

	近江八幡		京都		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
滋賀県	60	28.7%	11	8.0%	71	20.5%
近江八幡市	18	8.6%	0	0.0%	18	5.2%
大津市	14	6.7%	3	2.2%	17	4.9%
草津市	11	5.3%	2	1.5%	13	3.8%
湖南市	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
東近江市	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
守山市	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
高島市	1	0.5%	1	0.7%	2	0.6%
彦根市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
栗東市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
愛荘町	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
長浜市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
野洲市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
無回答	1	0.5%	4	2.9%	5	1.4%
大阪府	28	13.4%	36	26.3%	64	18.5%
大阪市	5	2.4%	6	4.4%	11	3.2%
茨木市	2	1.0%	4	2.9%	6	1.7%
高槻市	0	0.0%	6	4.4%	6	1.7%
堺市	4	1.9%	2	1.5%	6	1.7%
枚方市	2	1.0%	2	1.5%	4	1.2%
吹田市	1	0.5%	2	1.5%	3	0.9%
豊中市	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
池田市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
泉南市	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
高石市	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
東大阪市	1	0.5%	1	0.7%	2	0.6%
八尾市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
島本町	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
大東市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
箕面市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
守口市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
無回答	5	2.4%	6	4.4%	11	3.2%
京都府	18	8.6%	21	15.3%	39	11.3%
京都市	10	4.8%	14	10.2%	24	6.9%
宇治市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
木津川市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
舞鶴市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
向日市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
与謝野町	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
無回答	5	2.4%	5	3.6%	10	2.9%
兵庫県	11	5.3%	18	13.1%	29	8.4%
神戸市	1	0.5%	7	5.1%	8	2.3%
姫路市	4	1.9%	2	1.5%	6	1.7%
加古川市	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
川西市	1	0.5%	2	1.5%	3	0.9%
尼崎市	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
猪名川町	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
洲本市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
相生市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
三田市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
無回答	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
愛知県	25	12.0%	2	1.5%	27	7.8%
名古屋市	10	4.8%	1	0.7%	11	3.2%
岡崎市	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
安城市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
尾張旭市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
刈谷市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
幸田町	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
瀬戸市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
豊明市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
豊橋市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
無回答	6	2.9%	0	0.0%	6	1.7%
東京都	13	6.2%	5	3.6%	18	5.2%
世田谷区	0	0.0%	3	2.2%	3	0.9%
港区	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
渋谷区	1	0.5%	1	0.7%	2	0.6%
江戸川区	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
杉並区	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
台東区	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
千代田区	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
豊島区	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
八王子市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
目黒区	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%

無回答	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
神奈川県	3	1.4%	9	6.6%	12	3.5%
横浜市	0	0.0%	5	3.6%	5	1.4%
川崎市	0	0.0%	3	2.2%	3	0.9%
相模原市	1	0.5%	1	0.7%	2	0.6%
鎌倉市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
奈良県	5	2.4%	6	4.4%	11	3.2%
奈良市	3	1.4%	6	4.4%	9	2.6%
五條市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
岐阜県	8	3.8%	2	1.5%	10	2.9%
山県市	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
岐阜市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
羽島市	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
垂井町	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
無回答	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
静岡県	6	2.9%	0	0.0%	6	1.7%
川根本町	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
袋井市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
島田市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
三重県	3	1.4%	2	1.5%	5	1.4%
津市	1	0.5%	2	1.5%	3	0.9%
松阪市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
千葉県	3	1.4%	2	1.5%	5	1.4%
市原市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
木更津市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
松戸市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
無回答	1	0.5%	1	0.7%	2	0.6%
福岡県	0	0.0%	5	3.6%	5	1.4%
福岡市	0	0.0%	3	2.2%	3	0.9%
北九州市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
無回答	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
徳島県	3	1.4%	1	0.7%	4	1.2%
徳島市	3	1.4%	0	0.0%	3	0.9%
土板町	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
福井県	4	1.9%	0	0.0%	4	1.2%
坂井市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
福井市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
岡山県	1	0.5%	2	1.5%	3	0.9%
倉敷市	1	0.5%	2	1.5%	3	0.9%
埼玉県	1	0.5%	2	1.5%	3	0.9%
所沢市	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
上尾市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
石川県	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
金沢市	2	1.0%	0	0.0%	2	0.6%
香川県	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
高松市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
三豊市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
熊本県	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
菊池郡	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
熊本市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
北海道	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
札幌市	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
和歌山県	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
和歌山市	0	0.0%	2	1.5%	2	0.6%
岩手県	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
盛岡市	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%
島根県	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
出雲市	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
無回答	14	6.7%	4	2.9%	18	5.2%
合計	209	100.0%	137	100.0%	346	100.0%

出典：筆者作成

参考資料 B：古着の着物に対する支払意思額の度数分布表

(a) 全体・環境情報提供前

階級	階級値	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
～0		62	62	20.7%	20.7%
0～2000	1000	0	62	0.0%	20.7%
2000～4000	3000	17	79	5.7%	26.4%
4000～6000	5000	21	100	7.0%	33.4%
6000～8000	7000	35	135	11.7%	45.2%
8000～10000	9000	20	155	6.7%	51.8%
10000～12000	11000	70	225	23.4%	75.3%
12000～14000	13000	7	232	2.3%	77.6%
14000～16000	15000	6	238	2.0%	79.6%
16000～18000	17000	6	244	2.0%	81.6%
18000～20000	19000	2	246	0.7%	82.3%
20000～22000	21000	27	273	9.0%	91.3%
22000～24000	23000	1	274	0.3%	91.6%
24000～26000	25000	0	274	0.0%	91.6%
26000～28000	27000	1	275	0.3%	92.0%
28000～30000	29000	0	275	0.0%	92.0%
30000～32000	31000	20	295	6.7%	98.7%
32000～34000	33000	0	295	0.0%	98.7%
34000～36000	35000	0	295	0.0%	98.7%
36000～38000	37000	1	296	0.3%	99.0%
38000～40000	39000	0	296	0.0%	99.0%
40000～		3	299	1.0%	100.0%
合計		299		100.0%	

出典：筆者作成

(b) 全体・環境情報提供後

階級	階級値	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
～0		57	57	19.1%	19.1%
0～2000	1000	2	59	0.7%	19.7%
2000～4000	3000	10	69	3.3%	23.1%
4000～6000	5000	24	93	8.0%	31.1%
6000～8000	7000	26	119	8.7%	39.8%
8000～10000	9000	21	140	7.0%	46.8%
10000～12000	11000	72	212	24.1%	70.9%
12000～14000	13000	12	224	4.0%	74.9%
14000～16000	15000	5	229	1.7%	76.6%
16000～18000	17000	7	236	2.3%	78.9%
18000～20000	19000	3	239	1.0%	79.9%
20000～22000	21000	32	271	10.7%	90.6%
22000～24000	23000	2	273	0.7%	91.3%
24000～26000	25000	0	273	0.0%	91.3%
26000～28000	27000	3	276	1.0%	92.3%
28000～30000	29000	0	276	0.0%	92.3%
30000～32000	31000	16	292	5.4%	97.7%
32000～34000	33000	0	292	0.0%	97.7%
34000～36000	35000	0	292	0.0%	97.7%
36000～38000	37000	0	292	0.0%	97.7%
38000～40000	39000	1	293	0.3%	98.0%
40000～		6	299	2.0%	100.0%
合計		299		100.0%	

出典：筆者作成

(c) 近江八幡・環境情報提供前

階級	階級値	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
～0		32	32	17.8%	17.8%
0～2000	1000	0	32	0.0%	17.8%
2000～4000	3000	12	44	6.7%	24.4%
4000～6000	5000	15	59	8.3%	32.8%
6000～8000	7000	25	84	13.9%	46.7%
8000～10000	9000	12	96	6.7%	53.3%
10000～12000	11000	43	139	23.9%	77.2%
12000～14000	13000	3	142	1.7%	78.9%
14000～16000	15000	3	145	1.7%	80.6%
16000～18000	17000	3	148	1.7%	82.2%
18000～20000	19000	1	149	0.6%	82.8%
20000～22000	21000	18	167	10.0%	92.8%
22000～24000	23000	0	167	0.0%	92.8%
24000～26000	25000	0	167	0.0%	92.8%
26000～28000	27000	0	167	0.0%	92.8%
28000～30000	29000	0	167	0.0%	92.8%
30000～32000	31000	10	177	5.6%	98.3%
32000～34000	33000	0	177	0.0%	98.3%
34000～36000	35000	0	177	0.0%	98.3%
36000～38000	37000	1	178	0.6%	98.9%
38000～40000	39000	0	178	0.0%	98.9%
40000～		2	180	1.1%	100.0%
合計		180		100.0%	

出典：筆者作成

(d) 近江八幡・環境情報提供後

階級	階級値	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
～0		27	27	15.0%	15.0%
0～2000	1000	2	29	1.1%	16.1%
2000～4000	3000	7	36	3.9%	20.0%
4000～6000	5000	15	51	8.3%	28.3%
6000～8000	7000	16	67	8.9%	37.2%
8000～10000	9000	16	83	8.9%	46.1%
10000～12000	11000	44	127	24.4%	70.6%
12000～14000	13000	7	134	3.9%	74.4%
14000～16000	15000	4	138	2.2%	76.7%
16000～18000	17000	4	142	2.2%	78.9%
18000～20000	19000	2	144	1.1%	80.0%
20000～22000	21000	22	166	12.2%	92.2%
22000～24000	23000	0	166	0.0%	92.2%
24000～26000	25000	0	166	0.0%	92.2%
26000～28000	27000	0	166	0.0%	92.2%
28000～30000	29000	0	166	0.0%	92.2%
30000～32000	31000	8	174	4.4%	96.7%
32000～34000	33000	0	174	0.0%	96.7%
34000～36000	35000	0	174	0.0%	96.7%
36000～38000	37000	0	174	0.0%	96.7%
38000～40000	39000	1	175	0.6%	97.2%
40000～		5	180	2.8%	100.0%
合計		180		100.0%	

出典：筆者作成

(e) 京都・環境情報提供前

階級	階級値	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
～0		30	30	25.2%	25.2%
0～2000	1000	0	30	0.0%	25.2%
2000～4000	3000	5	35	4.2%	29.4%
4000～6000	5000	6	41	5.0%	34.5%
6000～8000	7000	10	51	8.4%	42.9%
8000～10000	9000	8	59	6.7%	49.6%
10000～12000	11000	27	86	22.7%	72.3%
12000～14000	13000	4	90	3.4%	75.6%
14000～16000	15000	3	93	2.5%	78.2%
16000～18000	17000	3	96	2.5%	80.7%
18000～20000	19000	1	97	0.8%	81.5%
20000～22000	21000	9	106	7.6%	89.1%
22000～24000	23000	1	107	0.8%	89.9%
24000～26000	25000	0	107	0.0%	89.9%
26000～28000	27000	1	108	0.8%	90.8%
28000～30000	29000	0	108	0.0%	90.8%
30000～32000	31000	10	118	8.4%	99.2%
32000～34000	33000	0	118	0.0%	99.2%
34000～36000	35000	0	118	0.0%	99.2%
36000～38000	37000	0	118	0.0%	99.2%
38000～40000	39000	0	118	0.0%	99.2%
40000～		1	119	0.8%	100.0%
合計		119		100.0%	

出典：筆者作成

(f) 京都・環境情報提供後

階級	階級値	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
～0		30	30	25.2%	25.2%
0～2000	1000	0	30	0.0%	25.2%
2000～4000	3000	3	33	2.5%	27.7%
4000～6000	5000	9	42	7.6%	35.3%
6000～8000	7000	10	52	8.4%	43.7%
8000～10000	9000	5	57	4.2%	47.9%
10000～12000	11000	28	85	23.5%	71.4%
12000～14000	13000	5	90	4.2%	75.6%
14000～16000	15000	1	91	0.8%	76.5%
16000～18000	17000	3	94	2.5%	79.0%
18000～20000	19000	1	95	0.8%	79.8%
20000～22000	21000	10	105	8.4%	88.2%
22000～24000	23000	2	107	1.7%	89.9%
24000～26000	25000	0	107	0.0%	89.9%
26000～28000	27000	3	110	2.5%	92.4%
28000～30000	29000	0	110	0.0%	92.4%
30000～32000	31000	8	118	6.7%	99.2%
32000～34000	33000	0	118	0.0%	99.2%
34000～36000	35000	0	118	0.0%	99.2%
36000～38000	37000	0	118	0.0%	99.2%
38000～40000	39000	0	118	0.0%	99.2%
40000～		1	119	0.8%	100.0%
合計		119		100.0%	

出典：筆者作成

参考資料 C：着物の普段使いの頻度の度数分布表

(a) 全体・環境情報提供前

階級	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
0~1	224	224	74.9%	74.9%
1~2	34	258	11.4%	86.3%
2~3	15	273	5.0%	91.3%
3~4	4	277	1.3%	92.6%
4~5	3	280	1.0%	93.6%
5~6	4	284	1.3%	95.0%
6~7	2	286	0.7%	95.7%
7~8	1	287	0.3%	96.0%
8~9	0	287	0.0%	96.0%
9~10	0	287	0.0%	96.0%
10~11	3	290	1.0%	97.0%
11~12	0	290	0.0%	97.0%
12~13	3	293	1.0%	98.0%
13~14	0	293	0.0%	98.0%
14~15	0	293	0.0%	98.0%
15~16	1	294	0.3%	98.3%
16~17	0	294	0.0%	98.3%
17~18	0	294	0.0%	98.3%
18~19	0	294	0.0%	98.3%
19~20	0	294	0.0%	98.3%
20~21	2	296	0.7%	99.0%
21~22	0	296	0.0%	99.0%
22~23	0	296	0.0%	99.0%
23~24	0	296	0.0%	99.0%
24~25	0	296	0.0%	99.0%
25~	3	299	1.0%	100.0%
合計	299		100.0%	

出典：筆者作成

(b) 全体・環境情報提供後

階級	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
0~1	144	144	48.2%	48.2%
1~2	84	228	28.1%	76.3%
2~3	32	260	10.7%	87.0%
3~4	6	266	2.0%	89.0%
4~5	6	272	2.0%	91.0%
5~6	4	276	1.3%	92.3%
6~7	4	280	1.3%	93.6%
7~8	2	282	0.7%	94.3%
8~9	0	282	0.0%	94.3%
9~10	0	282	0.0%	94.3%
10~11	4	286	1.3%	95.7%
11~12	0	286	0.0%	95.7%
12~13	4	290	1.3%	97.0%
13~14	0	290	0.0%	97.0%
14~15	0	290	0.0%	97.0%
15~16	0	290	0.0%	97.0%
16~17	0	290	0.0%	97.0%
17~18	0	290	0.0%	97.0%
18~19	0	290	0.0%	97.0%
19~20	0	290	0.0%	97.0%
20~21	5	295	1.7%	98.7%
21~22	0	295	0.0%	98.7%
22~23	0	295	0.0%	98.7%
23~24	0	295	0.0%	98.7%
24~25	1	296	0.3%	99.0%
25~	3	299	1.0%	100.0%
合計	299		100.0%	

出典：筆者作成

(c) 近江八幡・環境情報提供前

階級	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
0~1	130	130	72.2%	72.2%
1~2	18	148	10.0%	82.2%
2~3	11	159	6.1%	88.3%
3~4	3	162	1.7%	90.0%
4~5	1	163	0.6%	90.6%
5~6	4	167	2.2%	92.8%
6~7	1	168	0.6%	93.3%
7~8	1	169	0.6%	93.9%
8~9	0	169	0.0%	93.9%
9~10	0	169	0.0%	93.9%
10~11	3	172	1.7%	95.6%
11~12	0	172	0.0%	95.6%
12~13	3	175	1.7%	97.2%
13~14	0	175	0.0%	97.2%
14~15	0	175	0.0%	97.2%
15~16	1	176	0.6%	97.8%
16~17	0	176	0.0%	97.8%
17~18	0	176	0.0%	97.8%
18~19	0	176	0.0%	97.8%
19~20	0	176	0.0%	97.8%
20~21	1	177	0.6%	98.3%
21~22	0	177	0.0%	98.3%
22~23	0	177	0.0%	98.3%
23~24	0	177	0.0%	98.3%
24~25	0	177	0.0%	98.3%
25~	3	180	1.7%	100.0%
合計	180		100.0%	

出典：筆者作成

(d) 近江八幡・環境情報提供後

階級	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
0~1	79	79	43.9%	43.9%
1~2	51	130	28.3%	72.2%
2~3	19	149	10.6%	82.8%
3~4	5	154	2.8%	85.6%
4~5	5	159	2.8%	88.3%
5~6	2	161	1.1%	89.4%
6~7	3	164	1.7%	91.1%
7~8	1	165	0.6%	91.7%
8~9	0	165	0.0%	91.7%
9~10	0	165	0.0%	91.7%
10~11	3	168	1.7%	93.3%
11~12	0	168	0.0%	93.3%
12~13	4	172	2.2%	95.6%
13~14	0	172	0.0%	95.6%
14~15	0	172	0.0%	95.6%
15~16	0	172	0.0%	95.6%
16~17	0	172	0.0%	95.6%
17~18	0	172	0.0%	95.6%
18~19	0	172	0.0%	95.6%
19~20	0	172	0.0%	95.6%
20~21	4	176	2.2%	97.8%
21~22	0	176	0.0%	97.8%
22~23	0	176	0.0%	97.8%
23~24	0	176	0.0%	97.8%
24~25	1	177	0.6%	98.3%
25~	3	180	1.7%	100.0%
合計	180		100.0%	

出典：筆者作成

(e) 京都・環境情報提供前

階級	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
0~1	94	94	79.0%	79.0%
1~2	16	110	13.4%	92.4%
2~3	4	114	3.4%	95.8%
3~4	1	115	0.8%	96.6%
4~5	2	117	1.7%	98.3%
5~6	0	117	0.0%	98.3%
6~7	1	118	0.8%	99.2%
7~8	0	118	0.0%	99.2%
8~9	0	118	0.0%	99.2%
9~10	0	118	0.0%	99.2%
10~11	0	118	0.0%	99.2%
11~12	0	118	0.0%	99.2%
12~13	0	118	0.0%	99.2%
13~14	0	118	0.0%	99.2%
14~15	0	118	0.0%	99.2%
15~16	0	118	0.0%	99.2%
16~17	0	118	0.0%	99.2%
17~18	0	118	0.0%	99.2%
18~19	0	118	0.0%	99.2%
19~20	0	118	0.0%	99.2%
20~21	1	119	0.8%	100.0%
21~22	0	119	0.0%	100.0%
22~23	0	119	0.0%	100.0%
23~24	0	119	0.0%	100.0%
24~25	0	119	0.0%	100.0%
25~	0	119	0.0%	100.0%
合計	119		100.0%	

出典：筆者作成

(f) 京都・環境情報提供後

階級	度数	累積度数	相対度数	累積相対度数
0~1	65	65	54.6%	54.6%
1~2	33	98	27.7%	82.4%
2~3	13	111	10.9%	93.3%
3~4	1	112	0.8%	94.1%
4~5	1	113	0.8%	95.0%
5~6	2	115	1.7%	96.6%
6~7	1	116	0.8%	97.5%
7~8	1	117	0.8%	98.3%
8~9	0	117	0.0%	98.3%
9~10	0	117	0.0%	98.3%
10~11	1	118	0.8%	99.2%
11~12	0	118	0.0%	99.2%
12~13	0	118	0.0%	99.2%
13~14	0	118	0.0%	99.2%
14~15	0	118	0.0%	99.2%
15~16	0	118	0.0%	99.2%
16~17	0	118	0.0%	99.2%
17~18	0	118	0.0%	99.2%
18~19	0	118	0.0%	99.2%
19~20	0	118	0.0%	99.2%
20~21	1	119	0.8%	100.0%
21~22	0	119	0.0%	100.0%
22~23	0	119	0.0%	100.0%
23~24	0	119	0.0%	100.0%
24~25	0	119	0.0%	100.0%
25~	0	119	0.0%	100.0%
合計	119		100.0%	

出典：筆者作成

参考資料 D：アンケート調査における自由回答

■近江八幡調査

- 着物のリサイクルショップにとっても関心があります。こういう機会を大変うれしく思います。ありがとうございました
- 着物は自分に合うサイズが分かりにくいなと思います。買うのがムズカシイ、アンティークはカワイイけど小さすぎて背が高いと選択肢がへる。けどカワイイかと。着たいなあとは思いますが。
- いいイベントだと思います。
- 絹物の他にもあることを広めて下さい。ゆかたじゃなくて木綿もよいですよ。
- とても楽しく良い企画だと思います。着物がとても身近に感じれて、日本の文化を大切にする心が生まれれると思います
- このような機会うれしい！着物を通して知らない人や若い世代と交流できてよかったよ
- 頑張ってください！！
- 若い人達が、着物をお召しになっていて、とてもほほえましくなり、日本文化は素晴らしいと感じました
- 色々なアレンジや着方があって面白いですね。カジュアルに着こなされる方が増えたらうれしいです。着物をこのような有意義な観点からとりあつかってくれるのはうれしいです。
- 着物が似合ってますよ
- ごくろう様です。
- 研究頑張ってください
- 研究頑張ってください
- 羽織の需要少ないですよネ
- 着物を推進されているのは、非常に好感が持てました。
- 持っている着物をいずれ着ようと思っていますがアンケートを通じて今後ぜひ機会を増やしたいと思いました。
- 着物はとてもステキだと思います。余裕があれば毎日でも着たいです。(時間に余裕)
- 着用の季節が難しい
- 着物は着てみたいと思いますが、動きにくい、お手洗などめんどろを考えると中々着る機会がありませんが、ステキだと思います！
- 着物の形態に流行はなくても、色・デザインには流行があり、その観点ではやはり環境にはやさしくないとはいえるのでは？
- 和服は高すぎるためにすたれたと考える。高級志向に寄りすぎたと思う。もっと気軽に着れる値段にし、クツや装身具と合わせて着るパンクな着方も許容するのが良いと考える
- 古着の着物は着たいとは思いますが、小物とかの再利用はいいと思います。
- 着やすく動きやすかったら着物をきてみたい
- できるだけ着ようとしている。
- 着物は素敵だし着るといいと思うけど、洗濯できないし着付けに時間がかかるし、とにかく手間がかかるので、たくさん持っているが着用しようと思わない。
- 研究、頑張ってください！
- 着物を環境面から考えたことがないので、新たな視点で興味深かったです。着物は認知度は高いのに着

ることがほとんどないので、まずは一度着てみるのが大切だと感じました。寺脇ゼミがんばれ!!

- 服が環境にこんなに影響を与えているとは思わなかった。
- 服のことにうといので、知れてよかったです。
- 着物にも流行があると思います
- サステナブルファッションと着物の結びつきが興味深かったです。
- 着物、似合っています♪
- がんばってください!!
- 20代に買った着物を毎年お正月に着ようと思い購入したが30年間で5回ぐらいしか着れなかった。機会もなかった。持っている着物を出来れば娘に着てもらえるとうれしいかな
- 着物も帯も素材としては魅力的、しかし着ることはなさそうなので。加工された巾ちゃく袋や、ブックカバーにしたものなど小物で取り入れるのは日常でも可能
- 着物は着ませんが、着物生地で衣類にリフォームして利用することはあります
- 家とかでは着てみたいかなと思った。
- 古着か古着じゃないかに限らず着物を買わないです、、、
- 着付けから勉強できる機会が若い人にあればいいですね
- がんばって下さい
- お疲れさまです。

■京都調査

- 着物を着て出かける機会を増やそうと思います🌟研究頑張ってください
- 頑張ってください! 😊
- 若い方が環境問題に取り組んでおられる姿が素敵だなと思いました個々の努力の積みかさねって大切ですね。自己中心的な世の中で大切なことだと思いました。
- サステナブルとファッションがこれほど関連があることに気づけたのが良かったです。
- サステナブルな社会に関心あります。
- 寒い中お疲れ様です! 頑張ってください!!
- 着物は、京都などの観光地だったら着たいと思うけど、神戸で着るには、勇気がいるな~と思いました。寒い中、お疲れ様です。頑張ってください😊
- アンケートごくろう様です。
- がんばって下さい。
- 着物はサステナブルの観点から言えば魅力的だが、機能が悪すぎる。
- 応援してます。
- 寒い中おつかれさまです。
- がんばって下さい😊
- ありがとうございます!!
- 頑張ってください。
- ほとんど自分で作るので服を購入することはないです。
- がんばって下さい。ご苦労さまです。
- 高く売れる所あれば知りたい
- ご苦労様…

参考資料 E：着物交換会に対する感想・意見

■満足度の理由 ※【】内の数値は5段階評価の評定値（5が「とても満足」、1が「とても不満」）

- 赤色の着物が欲しかったので、頂けて大変嬉しかったです。【5】
- いろいろなおびがあったのしかったです リーズナブルに着物が購入でき、さらに着付まで無料でしていただけて最高でした！！ケイティーさんありがとうございます。学生さん達も丁寧に接してくださり、お着物姿もとってもかわいかったです！またイベントがあればぜひ参加させていただきたいです！ありがとうございました。【5】
- 入りやすかったし、頂いた着物をすぐ着れるのがよかった。自分の着物と交換できるのもありがたかった。【5】
- 着物を着ている人が八幡堀あたりを歩いている光景がとてもよかったです。【5】
- 学生の皆様がアイデアを出して取り組んでいる姿勢に感銘を受けました。【5】
- 着物が好きなので、見学していくつもりが自分が着てもらいたくなりつついついお持ち帰りさせてもらいました。【5】
- 甲冑を手作りしておもてなし活動をしています。衣地や着物としてアンティークの着物や素材をつかっており、今回、色目の合う生地を手に入れられた。【5】
- 使わなくなったものを使えそうな着物と交換していただけました。ありがとうございました。【5】
- 妻が喜んでいたので【5】
- 自分の不要となった着物、帯を喜んで手に取ってうれしそうな顔をされてるのを見ることができて幸せな気持ちになりました。【5】
- 普段、着物にたずさわっているのので、このような機会に、めぐり逢えてとても嬉しかったです。【5】
- きれいな品だし、学生さん達の接し方も良く好感が持てました。【4】
- 若い方がこのような交換会をされたことを評価します。昔の着物も若い方が着られると新しい魅力が出るので良いと思います【4】
- 形にとらわれなくてステキでした。【4】
- 自分が着ない着物を廃棄ではなく、譲ることが場を探していたので。【4】
- 思っていた以上に、着物があつた【4】
- 着物のプロがいて、相談に乗ってもらえたこと【4】
- 若い方がきものに興味をもって楽しそうにされていて盛況でよかったです【4】
- スタッフの方？同士のお話が多く、少し選びにくく感じました。企画自体はすごく良いと思います。また開催して頂ければ来たいなと思いました。【3】
- 品数がもう少し多いと良かったです。こういう機会がまたあるといいと思います。ありがとうございました。【3】
- かわいい着物を沢山もらえ、キレイに早く着付けてもらい、チェキまで撮ってもらえて嬉しかった。着物人口増えてほしいと改めて思いました。【1】

■自由回答

- 大変お世話になりありがとうございました。
- 応援してます！
- ゼミでこのような取り組みを行うのはユニークで良いと思います。
- 定期的にこのようなイベントがあるとよいと思う。

- 今後も同様のイベントがあれば参加したいと思います。
- だれに声をかければいいのか、出品したい時はどうすればいいかわからなかったのが案内表示などあれば、いいかなと思いました。ありがとうございました。着物文化がすたれることがないよう、私も願っております。
- 駐車場がいっぱいで遠くにとめたため、着物の持ち込み持ち運びがけっこう重かった🌀
- ありがとうございました
- また催されたら来たいです。チェキもありがとうございました。
- お若い方々が着物を着られているのはとてもステキでした
- 従来の着物とは異なる着こなし（50 歳代以上）方法など教えてもらえるとうれしいです。サスティナブルなファッションとてもかわいかったです
- 私もりサイクルきもの推進派です。が、あまりふだんきてる人がないので着る人がふえるとうれしいので、どんどんがんばって下さい